

平成15(2003)年度

福岡市埋蔵文化財センター一年報

第23号



2004

福岡市教育委員会

序

アジアの玄関口である福岡市は、古来から対外交渉の門戸として栄えてきました。このことを物語るように、市内には数多くの遺跡が残されています。

これらの遺跡の中で、板付遺跡や元寇防塁・今宿古墳群をはじめとして一部の遺跡は、国の史跡として保存・整備を行い広く市民に公開しております。また、都市基盤整備や宅地造成などでやむを得ず消滅する遺跡については、事前に発掘調査を実施し、記録保存に努めております。

埋蔵文化財センターは、発掘調査で出土した遺物や記録類を体系的に収蔵管理し、多くの市民に活用して頂くために、昭和57年2月に開館しました。開館以来二度にわたって増改築を行い、収蔵庫・展示室・研修室・保存処理室などの拡充に努めてまいりました。

今後とも、多くの市民が、当センターを利用されるようお願いいたしますとともに、関係各位のなおいっそうのご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年8月31日

福岡市教育委員会 教育長 生田 征生

目次

I 平成15(2003)年度の活動	1
1. 資料の収蔵・整理	1
2. 保存処理	6
3. 補遺—老司古墳出土の壺形埴輪—	21
4. DNA“おもしろ探検隊”の概要	24
5. 教育普及活動	25
6. 入館者数	32
7. 平成15年度当初予算	32
II 埋蔵文化財センターの概要	33
1. 組織と職員	33
2. 施設	34
付1 福岡市埋蔵文化財センター条例等	35
付2 平成15年度刊行福岡市埋蔵文化財調査報告書一覧	裏表紙見返し

例言

1. 本書は平成15年度(2003年4月1日～2004年3月31日)の福岡市埋蔵文化財センターの業務年報である。
2. 本書の作成は、二宮忠司、内田寿夫、瀧本正志、矢野昌治、片多雅樹、比佐陽一郎、柳田純孝、常松幹雄が担当した。

※表紙写真は西区桑原石ヶ元8号墳出土金銅装単鳳環頭大刀(古墳時代後期)

I 平成15(2003)年度の活動

1. 資料の収蔵・整理

(1) 収蔵方針

昭和44(1969)年、教育委員会に文化課が発足して以来、市内における緊急調査や史跡整備に伴う確認調査などで得られた出土品および写真・図面等の記録類は膨大な数量に及んでいる。これら考古資料の保存と活用をはかり、市民文化の向上に資するために、昭和57(1982)年、福岡市埋蔵文化財センター(以下、センターと呼ぶ)が設立された。

現在、福岡市の文化財行政は教育委員会文化財部(組織はⅡ-1章参照)で行っている。このうち埋蔵文化財の発掘調査は埋蔵文化財課、大規模事業等担当課、鴻臚館跡担当課が常時実施しているほか、文化財整備課も史跡整備に伴う発掘調査を随時行っている。これらの発掘調査に伴う考古資料は、埋蔵文化財課では3ヶ所の整理事務所で、また大規模と鴻臚館ではそれぞれの調査事務所で整理作業を行い、報告書作成の運びとなっている。センターは報告書が刊行された考古資料を発掘事業担当課から受入れて収蔵し、管理することを事業の柱の一つとしている(発掘事業は行っていない)。

このように発掘調査で得られた考古資料は、速やかに一般公開され、広く市民や研究者に活用される事が望ましい。このため文化財部では発掘調査、整理、収蔵の一連の作業が統一性をもって円滑に遂行され、考古資料の多用で迅速な活用をはかるため、昭和60(1985)年に「埋蔵文化財資料の収蔵整理要項」(『福岡市埋蔵文化財センター年報』第5号1985所収)を策定した。この要項はその後実状にあわせ細部を改変したものの、策定後から要項に沿った発掘調査、整理作業が実施され、センターへの考古資料の収蔵も円滑なものとなっており、また収蔵された考古資料の活用も年々増加している(Ⅰ-3

章参照)。

これらの考古資料を収蔵するため、センターは開館以来二度の増改築を行った(Ⅱ-2章参照)。平成10年度の増築・改造で一般収蔵庫は1,953㎡の増床となり(全体で4,066㎡)、今後の出土品の増加を見込んでも、平成11年度から約15年間の収蔵スペースが確保できた。また、現在3階建の収蔵庫部分は、将来5階までの増築が可能な構造である。

(2) 平成15年度の本収蔵

センターに本収蔵されている考古資料は、発掘事業担当課が報告書刊行後要項に沿った整理作業を行い搬入・収蔵したもの(埋文課と表記)と、要項策定以前に発掘調査が行われ仮収蔵されていた資料をセンターで要項に沿って整理したうゑ収蔵したもの(センターと表記)とに区分される。

平成15年度の本収蔵は、埋文課から搬入・収蔵されたもの85遺跡、センターで収蔵したものの8遺跡のあわせて93遺跡(新規収蔵91遺跡、追加収蔵2遺跡)である。主な収蔵品は遺物がコンテナ7,519箱と甕棺82個(コンテナ換算する場合は甕棺1個を12箱とする)、写真類が42,915点、図面類が8,616点、写真カードが9,646枚である(表2)。

出土品のうち土器・石器は一般収蔵庫に、金属器・木製品・玉類は特別収蔵庫に収納する。また写真類は第一記録類収蔵庫、図面類は第二記録収蔵庫、写真カードは第一資料整理室へそれぞれ納めた。

平成15年度までにセンターに本収蔵されたのは934遺跡(追加収蔵まで含めた収蔵数は960件)で、その内訳は登録遺物553,404点、甕棺1,060個、コンテナ61,322箱、ネガフィルム237,466点、

スライドフィルム272,330点、図面類102,539枚、写真カード128,733枚となっている(表1)。平成15年度までの市内での発掘調査は1,814遺跡であり、そのうちの1,084遺跡、全体の約59%が本収蔵され、検索が可能となった。

(3) ポジカラーフィルムのデジタル化

収蔵されているポジカラーフィルムには年月

の推移とともに褪色、劣化が著しいものがある。平成12年度よりデジタル化によって現状保存をはかっている。

4年目の今年度は、1989年度から1993年度までの63調査について委託を行った。CD化にあたっては35mmを主な対象とし、報告書に用いられたカットとその他の必要なカットを遺跡調査番号ごとに選択した。

表1 平成15(2003)年度本収蔵一覧

収蔵番号	収蔵区分	調査番号	遺跡名	回数	報告書(集)	登録遺物点数	遺物		ネガフィルム			ポジフィルム			図面		写真カード	調査担当者
							壺棺数	コンテナ数	35mm(本)	6×7(枚)	4×5(枚)	35mm(枚)	6×7(枚)	4×5(枚)	遺構	遺物		
200301	埋文課	9836	博多遺跡群	111	711	11,802		1,054	84	687	9	991	736	8	246	146	520	佐藤一郎井上藤子
200302	埋文課	0011	臼佐遺跡群	3	751	1,005		58	9	273		203	161		171	82	153	阿部泰之
200303	埋文課	0111	大橋E遺跡	7	740	186		19	3	53		65	34		26	36	32	阿部泰之
200204	埋文課	8535	吉武遺跡群	9	775	162	3	14		86					3	31	43	加藤良彦
200205	埋文課	9959	箱崎遺跡	20	767	1,008		34	8	243		146	68	1	50	47	122	榎本義嗣
200306	埋文課	9755	水町古墳	1	755	155		4	14	88		104	62		10	6	63	榎本義嗣
200307	埋文課	0102	博多遺跡群	130	762	519		47	4	34		52	34		18	37	25	上角智希
200208	埋文課	0152	博多遺跡群	137	766	361		53	6	50		78	51		10	32	37	上角智希
200209	埋文課	9828	下月隈C遺跡	4	750	2,018	3	476	23	2,344		543	437		161	438	974	瀧本正志
200310	埋文課	9918	野芥遺跡群	9	年報14	0			1			4			3		1	蔵富士寛
200311	埋文課	9928	原遺跡群	20	688	205		10	8	98		153			22	17	52	蔵富士寛
200312	埋文課	9954	拾六町平田遺跡	3	689	127		15	4	61		52			12	12	34	蔵富士寛
200313	埋文課	9968	神松寺遺跡	2	689	159		7	2	34		31			12	11	19	蔵富士寛
200314	埋文課	0007	七隈古墳C-1号墳		700	23		2	5	75		106			15	5	41	蔵富士寛
200315	埋文課	0039	野芥遺跡	10	700	12		1	1			16			4	1	2	蔵富士寛
200316	埋文課	0046	飯倉C遺跡	6	年報15	4		1	1			6			1		1	蔵富士寛
200317	埋文課	0051	板付遺跡	69	718	108		4	2			46			4	3	4	蔵富士寛
200318	埋文課	0063	原東遺跡	2	724	114		36	6	120		112			21	30	71	蔵富士寛
200319	埋文課	0151	羽戸古墳群C群C5号墳		769	43		3	5	80		92			14	6	50	蔵富士寛
200320	埋文課	9554	博多遺跡群	95	757	2,990		213	41	523		605	161		80	323	340	吉武学
200321	埋文課	0112	博多遺跡群	131	763	526		75	4	231		136	20		25	22	121	吉武学
200322	埋文課	0127	比恵遺跡群	76	771	154		8	3	56		69	19		13	10	32	吉武学
200323	埋文課	0135	比恵遺跡群	77	771	173		10	3	33		72	20		13	11	20	吉武学
200324	埋文課	9926	鶴崎古墳群B-5号墳		697	132	2	5	11	122		182			20	11	83	米倉秀紀 蔵富士寛
200325	埋文課	9945	周船寺遺跡群	112	年報14	11	1	2	1			10				5	3	米倉秀紀
200326	埋文課	9976	飯倉C遺跡群	5	696	124		11	4	96		74			19	8	56	米倉秀紀
200327	埋文課	0024	城の原遺跡	1	年報15	21		1	2			17			7	1	3	米倉秀紀
200328	埋文課	0029	田島A遺跡	4	723	26		1	4	10		8			2	1	9	米倉秀紀
200329	埋文課	0032	田島A遺跡	5	723	43		1	2	8		4			2	1	8	米倉秀紀
200330	埋文課	0044	田島A遺跡	6	723	76		2	2	18		12			3	4	12	米倉秀紀
200331	埋文課	0059	原遺跡群	21	年報15	29		1	1	8		14			2	1	6	米倉秀紀
200332	埋文課	0117	有田遺跡群	202	735	169		12	7	81		116	23		24	5	55	米倉秀紀
200333	埋文課	0137	飯倉B遺跡	1	年報16	23		2	1	6		24			3	1	5	米倉秀紀
200334	センター	7912	次郎丸高石遺跡	1	69	260		19	16	80		99			77	27	63	埋蔵文化財センター
200335	埋文課	0132	梅林遺跡	6	739	98		2	8	22		121	30		7	12	24	池田祐司
200336	埋文課	0160	重留村下遺跡	2	749	231		4	5	8		83			18	14	13	池田祐司
200337	埋文課	9729	大原D遺跡群	5	732-741	1,164		90	17	163		220	44		51	100	106	荒牧宏行
200338	埋文課	0001	元岡遺跡群	20	743	37				116			2	77		37	88	菅波正人
200339	埋文課	8335	吉武遺跡群	4	775	21		6							2			横山邦継
200340	埋文課	8416	吉武遺跡群	6	775	1,581	22	181								172		横山邦継

200341	埋文課	9901	大原D遺跡群	6	741	444		6		72				35	12	35	星野恵美	
200342	埋文課	0012	寺島遺跡	1	753	1,205		36	38	261		771	83	136	38	214	星野恵美	
200343	センター	7206	宝満尾遺跡	1	26	48		24	18			204		63	6	37	埋蔵文化財センター	
200344	埋文課	9810	立花寺B遺跡	5	702	9		1	1	40		24	11	7	1	25	瀧本正志	
200345	センター	8020	那珂深ヲサ	2	82	225		22	11	1,783		430		22	53	407	埋蔵文化財センター	
200346	センター	8047	那珂君休遺跡	1	82	3		1	3	57		46		5	1	29	埋蔵文化財センター	
200347	埋文課	9913	博多遺跡群	115	708	4,785		291	35	345		330	185	98	49	243	屋山洋	
200348	埋文課	9113	博多遺跡群	72	371	482		84	11	24		24	15	13	15	30	佐藤一郎	
200349	埋文課	9969	博多遺跡群	122	710	562		62	10	80		96	83	15	10	56	佐藤一郎	
200350	埋文課	0023	博多遺跡群	125	759	709		96	4	50		47	46	16	7	31	佐藤一郎	
200351	埋文課	0047	箱崎遺跡	24	768	1,249		77	5	102		102	100	28	6	60	佐藤一郎	
200352	センター	7704	神松寺遺跡群	1	45	223		18	22	208		279				134	埋蔵文化財センター	
200353	埋文課	9919	博多遺跡群	117	667	5,602		84	25	155		432	57	67	163	142	久住猛雄	
200354	埋文課	9975	野方平原遺跡	1	729	42		2	5	15		57		10	1	17	久住猛雄	
200355	埋文課	0003	野方平原遺跡	2	729	53		2	4	10		34	10	7	7	12	久住猛雄	
200356	埋文課	0014	野多目A遺跡	7	754	1,128		20	37	144	22	172	55	24	196	143	172	久住猛雄
200357	埋文課	0062	博多遺跡群	129	761	1,783		41	17	58		197	55	47	99	85	久住猛雄	
200358	埋文課	0124	今宿五郎江	6	年報16	56		2	1			22		5	1	2	藏富士寛	
200359	埋文課	0148	青木遺跡群	4	734	170		4	7	58		80	13	25	12	40	久住猛雄	
200360	埋文課	0158	今宿五郎江遺跡	7	年報16	118		3	3	20		60		17	5	17	久住猛雄	
200361	センター	8136	板付遺跡	36	83	409		66	20	143		37		37		117	柳沢一男・二宮忠司	
200362	埋文課	9843	梅林遺跡	3	698	815		18	25	701		753	368	385	119	302	井澤洋一	
200363	埋文課	9963	梅林遺跡	4	781	222		10	21	299		412	113	67	25	173	井澤洋一	
200364	センター	8658	老司古墳	4	209	912	16	11		139		799		187	635		センター	
200365	埋文課	0021-0025	笠拔遺跡	1、2	752	433	7	212	19	163		727	46	2	129	162	110	常松幹雄
200366	埋文課	9853	箱崎遺跡	16	703	152		8		46		57	12	7	16	6	力武卓治	
200367	埋文課	0050	立花寺遺跡群	5	779	248		18	9	138		124	129	22	30	99	長家伸	
200368	埋文課	0106	立花寺遺跡群	6	779	1,240		87	16	285		234	286	78	80	149	長家伸	
200369	埋文課	0058	博多遺跡群	128	760	558	19	38	6	129		106	143	27	103	77	長家伸	
200370	埋文課	0130	吉塚遺跡群	9	778	324		20	5	78		56	87	19	43	45	長家伸	
200371	埋文課	0140	麦野C遺跡	6	年報16	0		1				8		1		1	長家伸	
200372	埋文課	9241	雀居遺跡	4	748	262				143					117	145	力武卓治	
200373	埋文課	9609	雀居遺跡	10	746	3,275		892	8	1,276	76	987	347	115	118	283	255	力武卓治
200374	埋文課	9715	雀居遺跡	12	747	3,075	4	1,478	8	1,261	271	1,466	556	176	176	379	445	力武卓治
200375	埋文課	9819	雀居遺跡	13	748	2,308	3	624	1	723	144	835	394	73	169	192	251	力武卓治
200376	埋文課	9756-9819-0051	下月隈島越遺跡	1・2・3	755	113		8	16	86		132	56	33	8	67	榎本義嗣・上角智希	
200377	埋文課	0113	箱崎遺跡	27	812	835	1	67	9	32		82	31	58	70	32	上角智希	
200378	埋文課	0203	大橋E遺跡	9	791	108		8	8	46		132	34	34	14	38	上角智希	
200379	埋文課	0228	南八幡遺跡	11	825	53		3	3	28		50	26	14	5	19	上角智希	
200380	埋文課	0244	博多遺跡群	141	809	481		73	7	44		90	41	26	52	35	上角智希	
200381	センター	7101	下山門遺跡	1	23	483		97	18			265		23	21	33	センター	
200382	センター	7105	姪浜遺跡	1	23	31	1	1						1	1		センター	
200383	埋文課	9958	井尻B遺跡	14	736	278		74	6	56		123	46	30	38	39	屋山洋	
200384	埋文課	0004	井尻B遺跡	16	721	91		38	8	84		102	32	19	23	58	屋山洋	
200385	埋文課	9922	下月隈C遺跡	5	795	1,080		180	22	1,539		481	396	7	220	276	684	瀧本正志
200386	埋文課	0239	比恵遺跡	81	782	162		33	4	325		146	27	23	53	149	瀧本正志	
200387	埋文課	0005	麦野A遺跡群	8	774	73		2	3	50		41	36	12	2	30	井上蘭子	
200388	埋文課	0057	那珂遺跡群	79	756	256		19	6	234		97	89	28	21	128	井上蘭子	
200389	埋文課	0107	席田青木遺跡	5	777	559		39	4	178		48	40	25	15	95	井上蘭子	
200390	埋文課	0125	上月隈B遺跡群	1	742	1,319		22	9	282		154		69	22	158	井上蘭子	
200391	埋文課	9912	比恵遺跡群	68	793	82		8	4	77		91	12	6	11	48	山崎龍雄	
200392	埋文課	0215	五十川遺跡群	9	793	32		4	4	77		40		11	5	44	山崎龍雄	
200393	センター	8339	五十川遺跡群	2	111	90		2	6	188		86	52	43	15	100	横山邦継・下村智	
			93 小計		63,821		82	7,519	851	18,096	665	16,794	6,054	483	3,891	4,725	9,646	
							コンテナ計	8,503		ネガフィルム計	19,612		P714計	23,331	図面計	8,616		

註) 数の単位は遺物薬箱(個)、コンテナ(箱)、ネガフィルム35mm(本)、その他の写真(コマ、4×5は枚)、図面・写真カード(枚)

表2 本収蔵数一覧(1986~2003年度)

年度	収蔵区分	新規遺跡数	追加遺跡数	登録遺物点数	遺物		ネガフィルム			ポジフィルム			図面		写真カード
					壺棺数	コンテナ数	35mm(本)	6×7(コマ)	4×5(枚)	35mm(マ)	6×7(マ)	4×5(枚)	遺構	遺物	
1986	埋文課	4	0	3,639	0	749	57	1,397	7	1,358	163	0	352	239	781
	センター	14	0	4,475	0	309	343	1,844	169	3,736	386	96	617	512	1,564
	年度合計	18	0	8,114	0	1,058	400	3,241	176	5,094	549	96	969	751	2,345
1987	埋文課	12	0	8,860	3	779	284	4,051	8	2,931	373	0	994	1,223	2,744
	センター	9	0	2,631	1	217	229	2,327	80	3,121	254	2	427	290	1,630
	年度合計	21	0	11,491	4	996	513	6,378	88	6,052	627	2	1,421	1,513	4,374
1988	埋文課	38	1	15,193	61	1,152	560	8,566	10	6,694	647	0	1,784	1,789	5,074
	センター	5	0	11,301	72	740	331	4,342	137	4,848	13	0	888	1,141	2,994
	年度合計	43	1	26,494	133	1,892	891	12,908	147	11,542	660	0	2,672	2,930	8,068
1989	埋文課	11	0	16,380	6	1,121	231	7,507	99	4,634	966	63	1,612	1,619	2,343
	センター	3	0	6,701	0	868	155	3,559	92	2,906	0	0	105	418	2,090
	年度合計	14	0	23,081	6	1,989	386	11,066	191	7,540	966	63	1,717	2,037	4,433
1990	埋文課	60	0	43,807	29	2,214	1,460	17,561	712	19,235	2,405	76	3,173	3,277	9,563
	センター	30	0	11,096	3	766	311	3,073	0	4,714	496	8	723	955	1,924
	年度合計	90	0	54,903	32	2,980	1,771	20,634	712	23,949	2,901	84	3,896	4,232	11,487
1991	埋文課	57	0	32,480	32	3,028	599	10,974	45	9,051	1,095	67	2,435	2,552	6,075
	センター	6	0	4,586	65	724	395	3,303	86	3,541	811	45	666	865	1,856
	年度合計	63	0	37,066	97	3,752	994	14,277	131	12,592	1,906	112	3,101	3,417	7,931
1992	埋文課	74	4	33,934	78	3,449	760	12,820	12	12,490	1,618	25	3,505	3,092	6,972
	センター	13	2	8,046	30	1,287	284	3,006	19	3,141	176	8	558	985	1,950
	年度合計	87	6	41,980	108	4,736	1,044	15,826	31	15,631	1,794	33	4,063	4,077	8,922
1993	埋文課	52	0	28,850	26	4,355	711	21,093	38	12,410	2,949	17	2,858	2,811	11,587
	センター	6	0	6,034	7	1,118	237	22	463	2,123	0	26	308	156	654
	年度合計	58	0	34,884	33	5,473	948	21,115	501	14,533	2,949	43	3,166	2,967	12,241
1994	埋文課	40	1	17,817	118	1,570	472	8,556	0	7,680	1,751	4	1,936	2,068	4,797
	センター	9	0	7,285	3	984	151	1,026	125	2,619	68	11	560	427	985
	年度合計	49	1	25,102	121	2,554	623	9,582	125	10,299	1,819	15	2,496	2,495	5,782
1995	埋文課	57	1	40,565	37	4,229	675	12,851	257	10,564	3,035	238	2,519	3,354	7,581
	センター	13	0	5,854	9	1,128	182	2,973	6	3,099	270	0	448	450	1,526
	年度合計	70	1	46,419	46	5,357	857	15,824	263	13,663	3,305	238	2,967	3,804	9,107
1996	埋文課	66	0	32,101	148	3,454	764	12,136	0	14,364	4,429	10	3,239	3,256	7,629
	センター	12	0	5,015	82	565	245	2,529	618	3,331	284	0	520	1,035	1,725
	年度合計	78	0	37,116	230	4,019	1,009	14,665	618	17,695	4,713	10	3,759	4,291	9,354
1997	埋文課	84	1	58,346	56	7,942	1,063	18,594	23	17,119	7,240	44	4,424	3,848	10,889
	センター	8	0	5,088	0	740	134	2,293	355	2,217	391	0	291	616	1,112
	年度合計	92	1	63,434	56	8,682	1,197	20,887	378	19,336	7,631	44	4,715	4,464	12,001
1999	埋文課	109	2	54,107	79	5,509	1,193	18,783	1,008	22,461	7,209	84	5,207	4,779	11,675
	センター	3	0	1,279	1	366	44	704	0	991	82	0	87	88	455
	年度合計	112	2	55,386	80	5,875	1,237	19,487	1,008	23,452	7,291	84	5,294	4,867	12,130
2000	埋文課	75	5	47,069	71	5,798	1,361	20,717	75	26,016	8,431	84	6,069	5,896	12,968
	センター	11	0	3,851	0	535	51	419	69	790	157	0	897	299	337
	年度合計	86	5	50,920	71	6,333	1,412	21,136	144	26,806	8,588	84	6,966	6,195	13,305
2001	埋文課	44	1	30,512	34	4,785	669	8,157	121	10,229	3,011	7	2,263	2,930	5,061
	センター	9	8	6,502	9	841	356	3,277	65	4,281	11	0	1,065	1,039	2,192
	年度合計	53	9	37,014	43	5,626	1,025	11,434	186	14,510	3,022	7	3,328	3,969	7,253
2002	埋文課	50	6	47,781	112	5,229	689	10,503	0	13,496	4,956	13	2,356	3,195	6,274
	センター	10	0	2,595	2	268	130	489	215	2,107	0	0	203	261	690
	年度合計	60	6	50,376	114	5,497	819	10,992	215	15,603	4,956	13	2,559	3,456	6,964
2003	埋文課	82	3	61,651	66	7,356	755	15,498	665	14,786	6,002	483	3,644	4,436	8,124
	センター	8	0	2,170	16	163	96	2,598	0	1,980	52	0	247	289	1,522
	年度合計	90	3	63,821	82	7,519	851	18,096	665	16,766	6,054	483	3,891	4,725	9,646
計	埋文課	915	25	573,092	956	62,719	12,303	209,764	3,080	205,518	56,280	1,215	48,370	50,364	120,137
	センター	169	10	94,509	300	11,619	3,674	37,784	2,499	49,545	3,451	196	8,610	9,826	25,206
	総計	1,084	35	667,601	1,256	74,338	15,977	247,548	5,579	255,063	59,731	1,411	56,980	60,190	145,343

註) 1998年度はセンターの増築・改造のため本収蔵は行われなかった。
 数の単位は遺物壺棺(個)、コンテナ(箱)、ネガフィルム35mm(本)、その他の写真(コマ、4×5は枚)、図面・写真カード(枚)

表3 フォトCD製作遺跡一覧

調査番号	遺跡名	回数	報告書	CD数	カット数	C D 番号
8921	飯氏遺跡群	3	352	3	210	1206-3242-3727-3728-3736
9260	飯氏遺跡群	5	390	1	27	1206-3242-3737
8922	藤崎遺跡群	15	259	1	13	1206-3242-3738
8946	藤崎遺跡群	16	259	1	5	1206-3242-3738
8964	藤崎遺跡群	17	259	1	7	1206-3242-3738
8977	藤崎遺跡群	18	259	1	5	1206-3242-3738
8923	那珂遺跡群	21	291	1	76	1206-3242-3739
8925	博多遺跡群	51	283	1	10	1207-3241-1568
8926	井相田C遺跡群	3	658	1	31	1206-3242-3741
8927	拾六町平田遺跡	1	305	1	32	1206-3242-3742
8928	瀬戸口古墳	2	298	1	32	1206-3242-3743
8930	博多遺跡群	53	284	1	6	1206-3242-3745
9028	博多遺跡群	67	284	1	19	1206-3242-3745
8932	谷口遺跡	1	269	1	55	1206-3242-3749
8933	脇山A遺跡	4	311	2	183	1206-3242-3750-3751
8934	田村遺跡	9	302	1	5	1207-3241-1570
8935	那珂遺跡群	22	253	1	17	1206-3242-3752
8936	那珂遺跡群	23	254	1	64	1207-3241-1570
8940	飯倉F遺跡群	1	379	1	24	1206-3242-3753
9108	飯倉F遺跡群	3	379	1	43	1206-3242-3754
8937	飯倉C遺跡群	1	258	1	49	1206-3242-3756
8942	博多遺跡群	55	327	1	27	1206-3242-3757
8943	博多遺跡群	56	326	1	53	1207-3241-1357
8944	大塚遺跡	7	256	1	8	1207-3241-2771
8947	博多遺跡群	57	250	1	8	1207-3241-1568
8948	博多遺跡群	58	251	1	5	1207-3241-1568
8951	草場古墳	3	301	1	95	1207-3241-1351
8952	四箇遺跡	24	261	1	22	1207-3241-1353
8953	有田遺跡群	152	265	1	17	1207-3241-1354
8954	拾六町亀田遺跡	1	612	1	14	1207-3241-1355
9548	次郎丸高石遺跡	4	612	1	7	1207-3241-1355
9624	田村遺跡群	18	612	1	3	1207-3241-1355
8955	羽根戸古墳群	5	345	1	59	1207-3241-1356

調査番号	遺跡名	回数	報告書	CD数	カット数	C D 番号
8956	野多目A遺跡群	3	263	1	11	1207-3241-1571
8957	博多遺跡群	59	328	1	13	1207-3241-1573
8958	上月隈遺跡群	1	257	1	30	1207-3241-1574
8959	博多遺跡群	60	285	2	124	1207-3241-1575-1567
8961	有田遺跡群	154	307	1	30	1206-3242-4534
9027	有田遺跡群	159	307	1	17	1206-3242-4534
9036	有田遺跡群	163	307	1	11	1206-3242-4534
9047	有田遺跡群	165	307	1	19	1206-3242-4534
8962	博多遺跡群	61	252	1	35	1207-3241-2756
8970	田村遺跡群	10	524	1	8	1207-3241-1570
9358	田村遺跡群	17	524	1	21	1207-3241-1570
8963	博多遺跡群	62	397	2	151	1207-3241-2757-2758
8968	影ヶ浦遺跡群	2	241	1	54	1207-3241-2760
8973	山ノ鼻1号墳	1	309	1	55	1207-3241-2763
8972	相原古墳群(E群)	2	351	1	26	1207-3241-2764
9021	相原古墳群(C群)	3	351	1	32	1207-3241-2764
8978	藤崎遺跡群	19	260	1	18	1207-3241-2765
9014	藤崎遺跡群	20	338	1	26	1207-3241-2765
9140	藤崎遺跡群	21	338	1	22	1207-3241-2765
8974	博多遺跡群	63	286	1	35	1207-3241-2766
8976	博多遺跡群	64	396	1	44	1207-3241-2767
9009	三苦遺跡群	1	271	1	20	1207-3241-2768
8967	箱崎遺跡群	3	262	1	14	1207-3241-2769
9044	中村町遺跡	1	373	1	16	1207-3241-2769
9002	那珂遺跡群	26	409	1	17	1207-3241-2770
9316	麦野A遺跡群	4	409	1	2	1207-3241-2770
9024	雑餉隈遺跡群	1	276	1	7	1207-3241-2770
9324	雑餉隈遺跡群	2	409	1	11	1207-3241-2770
9349	雑餉隈遺跡群	3	409	1	7	1207-3241-2770
9367	雑餉隈遺跡群	4	409	1	3	1207-3241-2770
9013	青木遺跡群	2	350	1	27	1207-3241-2771

※ 63調査 CD69枚 2,137コマを製作。

2. 保存処理

(1) はじめに

当センターでは昭和57年の開館以来、市内出土埋蔵文化財のうち腐蝕や劣化により資料としての取り扱いや、通常の保管が困難なもの（主に対象となるのは木製品と金属製品）について、保存のための科学的処置を講じている。当初は直接的な処置のための限られた機器で作業を行ってきたが、平成11年度の増築により事前調査機器や大型の処理装置などが導入され、幅広い資料に対応が可能となっている。増築前後の施設の内容については、年報の第15号（増築前）、18号（増築後）をそれぞれ参照されたい。

(2) 出土木製品（有機物）

1) 処理の概要

今年度処理を行ったのは23遺跡282点で、詳細は一覧表の通りである（表4）。この内、雀居遺跡4次、香椎B遺跡1次、立花寺B遺跡2次、那珂君休遺跡7次出土の126点は国庫補助事業によるものである。処理法は資料の形態、材質、劣化度を考慮し、PEG含浸法を中心に主に3つの処理法を用いている。PEG含浸法は一般的な小型、中型の木製品、糖アルコール含浸法は、PEG含浸法では処理が困難な漆器や墨書の施された木簡類、或いは展示など活用のスケジュールに合わせて短期間での処理が必要な資料、真空凍結乾燥法はPEGを100%含浸すると、重くて取り扱いが困難な大型材や変形を期す恐れのある広葉樹芯持ち材というように、資料の種類に応じて使い分けをしている。

2) 処理工程

各処理法による作業は、資料の洗浄、処理前の写真撮影、処理カードの作成といった共通作業以降、次のような工程で行った。

なお処理後の資料は温湿度管理された特別収蔵庫において保管している。

◆PEG含浸法

- ①資料の梱包…不織布で梱包し、メッシュのコンテナなどに納める。
- ②PEG含浸…専用の含浸装置に梱包した資料を入れ、注水、加熱（60℃）。温度が安定したら初期濃度20%より置換開始。PEGは処理槽の容量から算出した計画表に基づき、日々適量を投入（写真w-1）し、同時に水分蒸発により濃度上昇を図った。濃度は一週間に一度溶液を採取し、溶液の重量と水分蒸発後の重量比較により算出。作業は5月末に置換を開始し、約8ヶ月後の2月初めに100%に至り、その後更に数週間含浸した。
- ③取り上げ…溶液から資料を取り出した後、温水で表面を洗浄し、自然乾燥（PEGの固化）。
- ④処理後観察…変形、破損の有無を点検し、処理前と比較した上で処理カードに記入。
- ⑤脱色及び表面処理…湯煎したアルコールによる表面洗浄。
- ⑥修復（破損資料のみ）…エポシキ系接着剤による折損部の接合、エポシキ系接着剤にマイクロバルーンを混入した材料による、欠損の復元。



写真w-1 PEG投入作業

◆糖アルコール（ラクチール）含浸法

- ①溶液の準備…資料の高さに対して3倍以上の

深さを持つ容器に、初期濃度約30%のラクチトール水溶液を作製。恒温乾燥機を80℃に設定し、加熱。容器には寸法・形状の多様さからポリプロピレン製のタッパーを使用し、付属の蓋（ポリエチレン製）は80℃の熱に耐えられないことから、蓋にはアルミホイルを使用。

②ラクチトール含浸…資料を溶液に浸し、資料が溶液の底に沈むことでその濃度が含浸されたと判断し、蓋をはずして水分蒸発により溶液濃度の上昇を図る。80℃で限界濃度（約80%）まで含浸させる。期間は小型資料で5日～2週間。

③結晶化（写真w-2）…資料を溶液から取り出し、表面を温水で軽く洗浄後、ラクチトールの粉末をまぶし、表面のラクチトール結晶を核として結晶化を資料内部まで進め固化させる。資料は50℃に設定した恒温乾燥機に入れるが、この際、温風が資料に直接あたらないように注意する（過乾燥の防止）。結晶化の時間は他施設での実績や経験的なもので判断している（小型資料で1週間～10日）。

④洗浄…表面に固着しているラクチトールの結晶を水で洗浄。

⑤乾燥…再び50℃の乾燥機で乾燥させる。

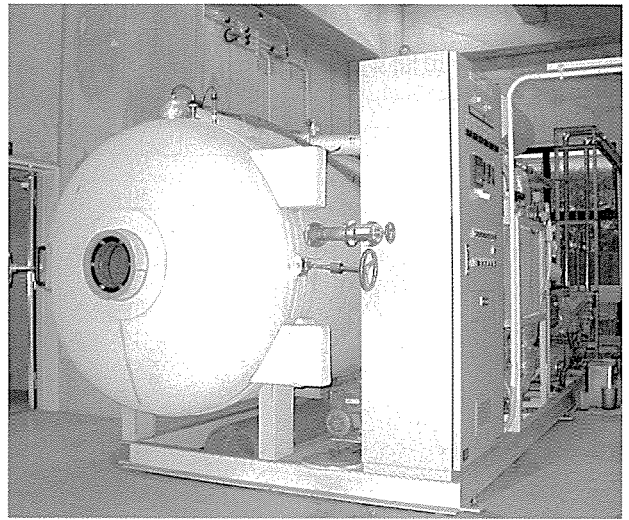


写真w-2 結晶化作業

◆真空凍結乾燥法

①予備凍結…資料を大型凍結乾燥機（写真w-3）に入れ、装置を作動。約-60℃下で凍結させる。

②乾燥…資料内の水分が十分に凝結したら、チャンバーを真空にし昇華による乾燥を図る。



写真w-3 真空凍結乾燥機

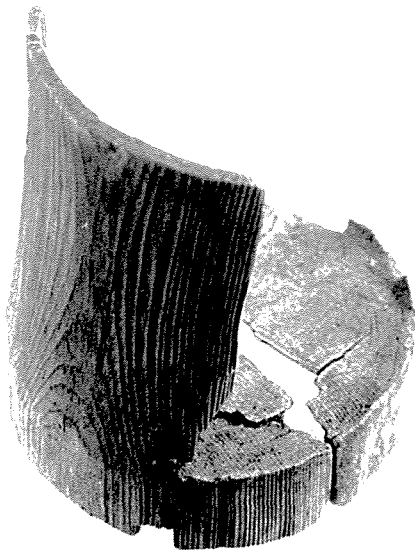
◆アクリル樹脂塗布

木質が完全に腐朽し塗膜のみ残存している漆器や、形を維持したまま乾燥して出土した木質に対して、アクリル樹脂（パラロイドB-72/5～10%アセトン溶液）を塗布、含浸することにより強化を行った。

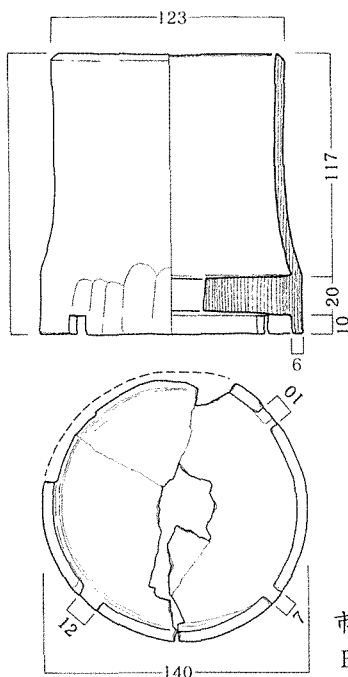
3) 処理木器紹介

◇^{くりものようき}剝物容器…雀居遺跡4次調査では、環濠の溝から弥生時代後期後半に比定される土器と共に、芯をはずした材を削りだして作られた剝物容器（写真w-4）が出土した。容器を形成する底部はほぼ全容を留め、経年変化により多少の歪みはあるもののほぼ正円を呈している。側板は1/3程度を残すのみであるが、高上部には規則的な間隔で3箇所（完形であれば4箇所になる）の「すかし」が施してあり（図w-1参照）、北陸・山陰・北部九州を中心とする日本海側において多く出土する桶型容器と考えられる。弥生時代後期後半～古墳時代前期まで盛行したことから、最も古い資料のひとつといえる^{註1)}。一見「挽物」、すなわち^{ひきもの}轆轤を用いて作られたような精巧な作りを魅せるが、轆轤使用時に特有の筋状加工痕がない（研磨により筋を消したものもあるが）ことや、刃物による削り痕が僅かに残っていることから剝物と判断された。側板の薄さやデザインの美しさ、繊細な加工が施された表面の滑らかさなど、当時の工人による

技術の高さと、それを可能にした工具（鉄器）の発展ぶりを垣間見ることが出来る。



写真w-4 剝物容器（PEG含浸法）

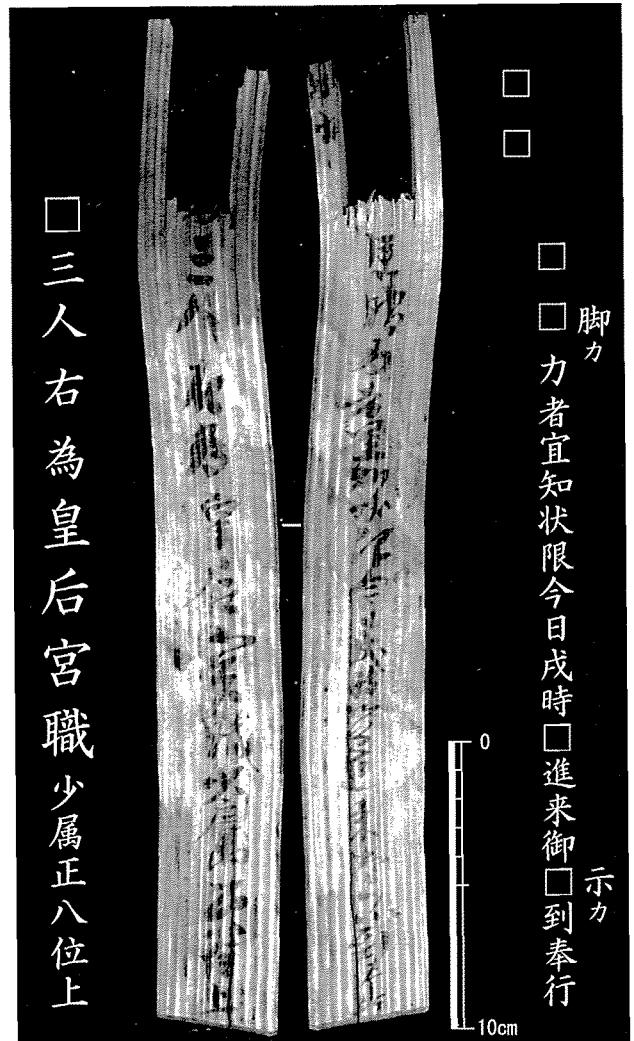


市報 748集
Fig.54-82

図w-1 剝物容器実測図

◇『皇后宮職』木簡…^{こうごうくわしき}下月限C遺跡7次調査の奈良～平安時代初めにかけての川跡内の堰から「皇后宮職」と書かれた木簡が出土した。皇后宮職は8～9世紀にあった皇室に関わる中央官庁のことで、記載された木簡が出土したのは全国で4例目である。更に当時都のあった近畿以外の地方から出土するのは初めてであり、中央とのつながりを示す資料として注目を浴びた。

その後、多くの閲覧希望がり、早急な保存処理が求められたため、糖アルコール含浸法により約一ヶ月で処理を行い、木質の強度、墨書の残り具合とも良好に仕上がった。なお、資料の反りは出土時のものである。



写真w-5 『皇后宮職』木簡の赤外線写真

註1) 福岡市教育委員会、山口譲治氏のご教示による。

[参考文献]

力武卓治(編)2003『雀居9』—福岡空港西側整備に伴う埋蔵文化財調査報告—福岡市埋蔵文化財調査報告書第743集福岡市教育委員会

木簡学会(編)2003『木簡研究 第二五号』真陽社

表4 平成15(2003)年度保存処理木製品一覧

処理No.	区分	遺物No.	資料名	材質	時代	報告書Fig	処理方法
板付39次(調査番号:8140 市報83集)							
18135	市	30001	短甲	木	弥生後期~古墳前期	12	PEG
博多29次(調査番号:8509 市報148集)							
18183	市	644	曲げ物	木	古代末~中世末	-	糖アルコール
拾六町平田2次(調査番号:9011 市報349集)							
17881	市	2002	加工材	木	弥生前期	-	PEG
17882	市	2003	加工材	木	弥生前期	-	PEG
17883	市	2004	板材	木	弥生前期	-	PEG
18007	市	2005	樹皮?	木	弥生前期	-	PEG
18008	市	2006	杭?	木	弥生前期	-	PEG
17884	市	2008	杭	木	弥生前期	-	PEG
18009	市	2011	板材	木	弥生前期	-	PEG
17885	市	2012	杭	木	弥生前期	-	PEG
17886	市	2013	板材	木	弥生前期	-	PEG
17887	市	2014	割板材	木	弥生前期	-	PEG
18010	市	2016	構築材	木	弥生前期	-	PEG
17888	市	2018	矢板	木	弥生前期	-	PEG
18011	市	2019	建築材	木	弥生前期	-	PEG
17889	市	2020	板材	木	弥生前期	-	PEG
18012	市	2021	杭	木	弥生前期	-	PEG
17890	市	2023	加工材	木	弥生前期	-	PEG
17891・17892	市	2025・2028	杭	木	弥生前期	-	PEG
17893	市	2029	棒状加工品	木	弥生前期	-	PEG
17894	市	2030	棒状加工品	木	弥生前期	-	PEG
18013	市	2031	棒状加工品	木	弥生前期	-	PEG
18014	市	2032	建築板材	木	弥生前期	-	PEG
18015	市	2033	建築板材	木	弥生前期	-	PEG
17895	市	2034	棒状加工品	木	弥生前期	-	PEG
18016	市	2035	板材	木	弥生前期	-	PEG
18017~18019	市	2037~2040	不明	木	弥生前期	-	PEG
18020	市	2041	板材?	木	弥生前期	-	PEG
18021	市	2045	加工板材	木	弥生前期	-	PEG
18022	市	2047	楔?	木	弥生前期	-	PEG
18023	市	2048	樹皮?	木	弥生前期	-	PEG
17896	市	2050	加工品	木	弥生前期	-	PEG
18024	市	2051	杭?	木	弥生前期	-	PEG
18025	市	2052	棒状加工品	木	弥生前期	-	PEG
17897	市	2055	杭	木	弥生前期	-	PEG
18026	市	2059	ミカン割材	木	弥生前期	-	PEG
18027	市	2062	加工板材	木	弥生前期	-	PEG
18028	市	2063	加工品	木	弥生前期	-	PEG
18029	市	2064	杭?	木	弥生前期	-	PEG
18030	市	2066	ミカン割材?	木	弥生前期	-	PEG
17898~17904	市	2068~2074	板材	木	弥生前期	-	PEG
17905・18031	市	2075・2076	杭	木	弥生前期	-	PEG
17906	市	2078	建築材	木	弥生前期	-	PEG
18032	市	2079	杭?	木	弥生前期	-	PEG
17907	市	2080	棒状加工品	木	弥生前期	-	PEG
18033	市	2081	杭	木	弥生前期	-	PEG
17908	市	2082	鋏未製品	木	弥生前期	-	PEG
18034	市	2083	杭	木	弥生前期	-	PEG
17909	市	2084	杭	木	弥生前期	-	PEG
18035	市	2085	加工品	木	弥生前期	-	PEG
18036	市	30001	樹皮	木	弥生	-	PEG
18121	市	30002	漆器(朱漆塗り)	木・漆	弥生	-	糖アルコール
17872	市	30006	ヒョウタン果皮	植物遺体	弥生	-	糖アルコール
18037	市	30024	加工品	木	弥生	-	PEG
18038	市	30025	杭	木	弥生	-	PEG
18039	市	30027	建築板材	木	弥生	-	PEG
18040	市	30028	杭	木	弥生	-	PEG
18041	市	30029	杭	木	弥生	-	PEG
博多72次(調査番号:9113 市報371集)							
18179	市	40001	漆器	木・漆	中世	-	糖アルコール
18180	市	40002	櫛・はし・仏像破片?	木	中世	-	糖アルコール
18181	市	40003	紡錘車or蓋	木	中世	-	糖アルコール
18182	市	40005	下駄	木	中世	-	糖アルコール

[区分の補は国庫補助事業、市は市単費による]

処理No.	区分	遺物No.	資料名	材質	時代	報告書Fig	処理方法
雀居4次 (調査番号: 9241 市報748集)							
18136	補	60077	剝物容器	木	弥生後期後半	54-82	PEG
18099	補	60381	容器(お-ル)	木	弥生前期中葉~後半	114-182	PEG
17873	市	60677	木鏝(朱塗り)	木・顔料	弥生後期後半	66-97	糖アルコール
17874	市	60678	木鏝	木	弥生後期後半	5-7	糖アルコール
雀居5次 (調査番号: 9317 市報407集)							
18137	市	30010	容器	木	縄文晩期	46-12	PEG
比恵53次 (調査番号: 9415 市報451集)							
18122	市	60103	火鑽白	木	中世	25-103	糖アルコール
香椎B1次 (調査番号: 9503 市報621集)							
17910	補	30001	下駄	木	中世	123	PEG
17911	補	30003	刃物の柄	木	中世	123	PEG
17912	補	30004	へら状木製品	木	中世	123	PEG
17913	補	30005	杓子型木製品	木	中世	123	PEG
17914	補	30006	有孔板状木製品	木	中世	-	PEG
17875	市	30007	齋串	木	中世	131	糖アルコール
17915	補	30008	下駄	木	中世	125	PEG
17916	補	30009	紡錘	木	中世	124	PEG
17917	補	30010	糸巻き	木	中世	124	PEG
17918	補	30011	糸巻き	木	中世	124	PEG
18138	市	30012	櫛	木	中世	130	糖アルコール
17919	補	30013	刀模造品	木	中世	131	PEG
17920	補	30014	加工部材	木	中世	130	PEG
17921	補	30015	木錘	木	中世	131	PEG
17922	補	30016	曲げ物底板	木	中世	-	PEG
17923	補	30017	加工板材	木	中世	-	PEG
17924	補	30018	底板	木	中世	128	PEG
17925	補	30019	杓文字型木製品	木	中世	129	PEG
17926	補	30020	下駄	木	中世	125	PEG
17927	補	30021	加工部材	木	中世	124	PEG
17928	補	30022	下駄	木	中世	125	PEG
17929	補	30023	加工部材	木	中世	130	PEG
17930	補	30024	板状木製品	木	中世	128	PEG
17931	補	30025	下駄	木	中世	137	PEG
17932	補	30026	舟形木製品 (ミニチュア)	木	中世	137	PEG
17933	補	30027	編錘	木	中世	137	PEG
17934	補	30028	編錘	木	中世	137	PEG
17935	補	30029	刀子の鞘	木	中世	130	PEG
17936	補	30030	曲げ物底板	木	中世	138	PEG
17937	補	30031	組合せ部材 (糸巻き?)	木	中世	-	PEG
17938	補	30032	十字状木製品	木	中世	138	PEG
17939	補	30033	鞘の一部	木	中世	139	PEG
17940	補	30034	木の球	木	中世	143	PEG
18139	市	30035	碗	木・漆	中世	143	糖アルコール
17941	補	30036	小刀の鞘	木	中世	143	PEG
17942	補	30037	加工木製品	木	中世	143	PEG
17943	補	30038	棒状木製品	木	中世	-	PEG
17944	補	30039	棒状木製品	木	中世	129	PEG
17876	市	30040	齋串	木	中世	134	糖アルコール
17945	補	30041	糸巻き	木	中世	135	PEG
17946	補	30043	桶の底板か蓋?	木	中世	141	PEG
17947	補	30044	下駄	木	中世	144	PEG
17948	補	30045	糸巻き	木	中世	143	PEG
17949	補	30046	糸巻き	木	中世	144	PEG
17950	補	30047	下駄	木	中世	144	PEG
17951	補	30048	板状木製品	木	中世	144	PEG
17952	補	30049	小型杭状製品	木	中世	144	PEG
17953	補	30051	鋏の頭部	木	中世	148	PEG
17954	補	30052	加工部材	木	中世	148	PEG
17955	補	30053	球状木製品	木	中世	145	PEG
17956	補	30054	道具の柄	木	中世	148	PEG
17957	補	30055	舟形木製品	木	中世	145	PEG
17958	補	30056	板状木製品	木	中世	146	PEG
17959	補	30057	下駄	木	中世	147	PEG
17960	補	30058	下駄	木	中世	147	PEG
17961	補	30059	下駄	木	中世	147	PEG

[区分の補は国庫補助事業、市は市単費による]

処理No.	区分	遺物No.	資料名	材質	時代	報告書Fig	処理方法
17962	補	30060	杓子	木	中世	148	PEG
17963	補	30061	砧	木	中世	149	PEG
17964	補	30062	折敷	木	中世	135	PEG
17965	補	30063	糸巻き	木	中世	143	PEG
17877	市	30064	木簡	木	中世	-	糖アルコール
17878	市	30065	木簡	木	中世	-	糖アルコール
17966	補	30066	船型木製品	木	中世	123	PEG
18042	市	30067	板材	木	中世	-	PEG
18140	市	30068	碗	木・漆	中世	132	糖アルコール
17967	補	30069	鞍	木	中世	136	PEG
17968	補	30070	道具の部材	木	中世	140	PEG
17969	補	30071	円柱状製品	木	中世	140	PEG
17970	補	30090	加工部材	木	中世	143	PEG
17971	補	30119	栓?柄の一部	木	中世	131	PEG
17972	補	30154	桶の蓋?底板	木	中世	142	PEG
18043	市	30155	曲げ物側板	木	中世	-	PEG
18044	市	30156	桶底片	木	中世	-	PEG
17973	補	30157	織り機部材?	木	中世	143	PEG
18045~18060	市	30201~30217	木片	木	中世	-	PEG
18143	市	30218	漆器椀、箸など	木・漆	中世(11~13C)	-	糖アルコール
18061~18064	市	30219~30222	木片	木	中世	-	PEG
立花寺B2次(調査番号:9511 市報523集)							
17974	補	90006	農具	木	中世	-	PEG
17975	補	90007	農具	木	中世	-	PEG
17976	補	90008	農具	木	中世	111	PEG
17977	補	90010	下駄	木	中世	111	PEG
17978	補	90011	木槌	木	中世	111	PEG
17979	補	90012	下駄未製品	木	中世	111	PEG
17980	補	90013	木槌	木	中世	111	PEG
18065~18069	市	90020~90024	板材	木	中世	-	PEG
18070	市	90025	槽?	木	中世	-	PEG
18071	市	90033	板材	木	中世	-	PEG
博多96次(調査番号:9559 市報605集)							
18184	市	30008	曲物	木	近世	52-105	糖アルコール
那珂君休7次(調査番号:9612 市報587集)							
17981	補	40001	二又鋏	木	弥生終末~古墳初頭	31-109	PEG
17982	補	40002	二又鋏・柄・着装具	木	弥生終末~古墳初頭	31-110-114	PEG
17983	補	40003	二又鋏	木	弥生終末~古墳初頭	31-108	PEG
17984	補	40004	鋏又は大足	木	弥生終末~古墳初頭	32-119	PEG
17985	補	40005	停泥	木	弥生終末~古墳初頭	33-120	PEG
17986	補	40006	二又鋏	木	弥生終末~古墳初頭	32-115	PEG
17987	補	40007	梯子	木	弥生終末~古墳初頭	39-140	PEG
17988	補	40008	梯子	木	弥生終末~古墳初頭	39-139	PEG
17989	補	40009	容器	木	弥生終末~古墳初頭	38-137	PEG
17990	補	40010	三又鋏	木	弥生終末~古墳初頭	32-117	PEG
17991	補	40011	鋤柄握り部	木	弥生終末~古墳初頭	32-118	PEG
17992	補	40012	鋤	木	弥生終末~古墳初頭	35-127	PEG
17993	補	40014	立杭建築材	木	弥生終末~古墳初頭	40-144	PEG
17994	補	40017	角材臍穴あり	木	弥生終末~古墳初頭	41-145	PEG
17995	補	40018	織り機の部材	木	弥生終末~古墳初頭	33-121	PEG
17996	補	40019	織り機の部材	木	弥生終末~古墳初頭	33-122	PEG
17997	補	40020	二又鋏	木	弥生終末~古墳初頭	32-116	PEG
17998	補	40021	木製品	木	弥生終末~古墳初頭	33-123	PEG
17999	補	40022	容器	木	弥生終末~古墳初頭	38-138	PEG
18142	市	40023	櫛	木	古墳以降	36-133	糖アルコール
18000	補	40024	二又鋏	木	弥生終末~古墳初頭	35-130	PEG
18001	補	40025	二又鋏	木	弥生終末~古墳初頭	34-125	PEG
18002	補	40026	広鋏	木	弥生終末~古墳初頭	36-132	PEG
18003	補	40027	二又鋏・柄	木	弥生終末~古墳初頭	35-128, 129	PEG
18004	補	40028	三又鋏	木	弥生終末~古墳初頭	34-126	PEG
18005	補	40030	二又鋏	木	弥生終末~古墳初頭	36-131	PEG
18006	補	40033	槌	木	弥生終末~古墳初頭	36-134	PEG
18072	補	40034	板	木	弥生終末~古墳初頭	-	PEG
18073~18077	補	40048~40054	木片	木	弥生終末~古墳初頭	-	PEG
18078~18081	補	40057~40062	立杭	木	弥生終末~古墳初頭	-	PEG
18082	補	40063	瓢箪?	木	弥生終末~古墳初頭	-	PEG

[区分の補は国庫補助事業、市は市単費による]

処理No.	区分	遺物No.	資料名	材質	時代	報告書Fig	処理方法
18119	市	40064	磁盤 (ナルノソカ)	木	弥生終末～古墳初頭	-	真空凍結乾燥
18083～18088	補	40065～40071	杭	木	弥生終末～古墳初頭	-	PEG
18089	補	40073	木片	木	弥生終末～古墳初頭	-	PEG
18090・18091	補	40074・40076	杭	木	弥生終末～古墳初頭	-	PEG
18092～18094	補	40077～40079	木片	木	弥生終末～古墳初頭	-	PEG
18095	補	40087	横木	木	弥生終末～古墳初頭	-	PEG
18096	補	40108	立杭	木	弥生終末～古墳初頭	-	PEG
18097	補	40113	木錘	木	弥生終末～古墳初頭	-	PEG
18098	補	40116	鋏の破片	木	弥生終末～古墳初頭	-	PEG
三苫4次 (調査番号: 9636 市報548集)							
18123	市	44	椀	木・漆	中世	15-26	糖アルコール
博多100次 (調査番号: 9647 市報707集)							
19580	市	3001	木簡	木	中世 (14C前半)	11-81	糖アルコール
19581	市	3002	木簡?	木	中世 (14C前半)	-	糖アルコール
東比恵3丁目1次 (調査番号: 9726 市報636集)							
18120	市	546	杭	木	弥生中期後半～後期前半	-	真空凍結乾燥
博多103次 (調査番号: 9754 市報627集)							
18141	市	40300	木造仏手	木・金泥	中世 (12C後半～13C前半)	12-33	糖アルコール
高畑17次 (調査番号: 9833 市報676集)							
18153	市	2002	棒状木製品	木	古代 (8～10C)	-	糖アルコール
18144	市	2005	木簡	木	古代 (8～9C)	23-104	糖アルコール
18145	市	2006	木簡	木	古代 (8～9C)	23-105	糖アルコール
18185	市	2007	絵馬	木・墨書	古代 (8～9C)	23-107	糖アルコール
18146	市	2009	棒状木製品	木	古代 (8～9C)	22-100	糖アルコール
18147	市	2010	木簡	木	古代 (8～9C)	22-101	糖アルコール
18148	市	2017	木簡	木	古代 (8C)	22-102	糖アルコール
18149	市	2018	木簡	木	古代 (8C)	23-103	糖アルコール
18154	市	2019	人形	木・墨書	古代 (8C)	23-106	糖アルコール
18186	市	2031	曲物底板 (墨書)	木・墨書	古代: 824～833年 (墨書)	23-108	糖アルコール
18187	市	2032	木簡	木・墨書	中世 (11～14C)	39-8	糖アルコール
18155	市	2033	竹製品	竹	中世 (11～14C)	39-4	糖アルコール
18156	市	2034	漆器椀	木・漆	中世 (11～14C)	39-2	糖アルコール
18188	市	2035	漆器皿	木・漆	中世 (11～14C)	39-3	糖アルコール
博多112次 (調査番号: 9845 市報632集)							
18124	市	162	皿か椀	木・漆	近世	-	糖アルコール
18125	市	163	皿か椀	木・漆	近世	-	糖アルコール
那珂68次 (調査番号: 9861 市報639集)							
17879	市	445	祭祀用音串 (長)	木	中世	-	糖アルコール
17880	市	446	祭祀用音串 (短)	木	中世	-	糖アルコール
今山8次 (調査番号: 9951 未報告)							
18150	市		木簡削り屑	木	古代		糖アルコール
元岡20次 (調査番号: 0001 市報743集)							
19582	市	20002	木簡「五…」	木・墨書	古代	9-2	糖アルコール
19583	市	20003	木簡「額田部…」	木・墨書	古代	9-3	糖アルコール
19584	市	20004	木簡「嶋郡赤敷里」	木・墨書	古代	9-4	糖アルコール
19585	市	20005	木簡「…氏郡」	木・墨書	古代	9-5	糖アルコール
19586	市	20006	木簡「為…習里」	木・墨書	古代	9-6	糖アルコール
19587	市	20007	木簡「久米郡…」	木・墨書	古代	9-7	糖アルコール
博多124次 (調査番号: 0006 市報758集)							
19591	市		漆塗膜	漆	中世	-	アクリル樹脂塗布
野多目A1次 (調査番号: 0014 市報754集)							
19575	市	1054	漆塗り木椀	木・漆	近世 (17C中頃)	81-215	糖アルコール
19576	市	1055	曲物底板	木	近世 (17C中頃)	81-216	糖アルコール
19577	市	1056	黒漆塗り椀	木・漆	近世 (17C中頃)	81-214	糖アルコール
19578	市	1057	曲物底板 (柄杓?)	木	近世 (17C初頭頃)	85-258	糖アルコール
19579	市	1058	板材	木	近世 (17C初頭頃)	85-259	糖アルコール
下月隈C7次 (調査番号: 0115 未報告)							
18151～18152	市		木簡	木・墨書	古代		糖アルコール
18152	市	M002	木簡	木	古代		糖アルコール
18189	市		木簡 (皇后宮識)	木・墨書	古代		糖アルコール

[区分の補は国庫補助事業、市は市単費による]

(3) 金属製品・その他の遺物

今年度、木製品以外で何らかの作業を行った資料は、19遺跡523点である。その内容は別表に示す。

金属器類の保存処理は概ね以下の工程により行っている。

事前調査：肉眼による表面観察の他、実体顕微鏡による付着物等の確認、透過X線による内部構造、劣化状況の把握等。

クリーニング：鉄製品はグラインダーやエアブラシを使用。銅、青銅製品の一部やこれを基調とする金銅製品など、表層の細かい情報を必要とするものは、顕微鏡下でメス等を用いた腐蝕層の除去やアルコール洗浄を行っている。またガラス小玉などは顕微鏡下でアルコールなどを用いた筆洗いを行ない、残留埋土を除去している。

樹脂含浸：いずれもアクリル樹脂を使用しているが、塗膜の厚さ等を考慮し、鉄製品にはパラロイドNAD-10を、銅・青銅製品にはパラロイドB-72を用いている。内部まで樹脂を浸透させる必要がある資料については50cmHg程度の減圧含浸を実施。

安定化：表中のデータには記していないが、主に銅・青銅製品について、ベンゾ・トリ・アゾールによる塩類の不活性化を図っている。鉄製品については、内部にメタルが残存し全てが錆に置き換わっていない資料について、水酸化リチウムのアルコール溶液に長時間漬け込む方法により脱塩処理を行う場合がある。

修復：特に強度を必要としないものはセルローズ系、強度を要する場合はエポキシ系の接着剤を使用。

処理後の資料については特別収蔵庫にて保管している他、必要に応じて脱水、脱酸素の機能を持った薬剤と共に特殊なバリア袋でパックして腐蝕の進行を阻止する方法（三菱ガス化学・RPシステム）での保管を行っている。

今年度の作業の中で特筆すべきものについて記す。

東油山古墳群は油山丘陵を取り囲むように広がる後期群集墳の一つで、2002年に発掘調査が行われた。調査対象となった3基の古墳からは多くの金属器が出土している。鉄刀や鉄鏃などの武器類の量もさることながら、特に目をひくのは装身具類の充実ぶりである。耳環は1号墳から11点、2号墳から12点の合計23点が出土している他、1号墳からはガラス玉90点、銀製の空玉16点（完形品11点・破損品2点・細片3点分）、金銅製空玉2点も出土している。この中でも空玉については、後でも触れるが完形品としては福岡市内で初めての出土であり、その評価をすべく若干詳しく述べておきたい。

銀製空玉は完形品を見る限り全点同じ球状で、最大径13.2～13.7mm、長さ13.3～14.6mmと、寸法も似通っている。また僅かに縦長の形状を呈する。いずれも両端頂部に1mm程の孔を有し、ここに糸などを通して連結して使用したと思われる。現状では暗紫灰色の腐蝕生成物

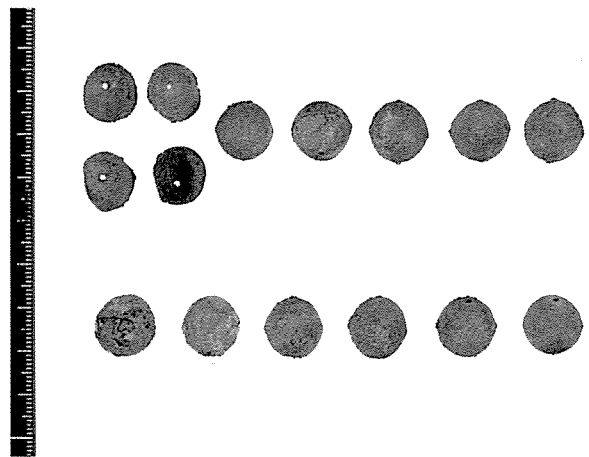


写真1 東油山E-1号墳出土銀製空玉

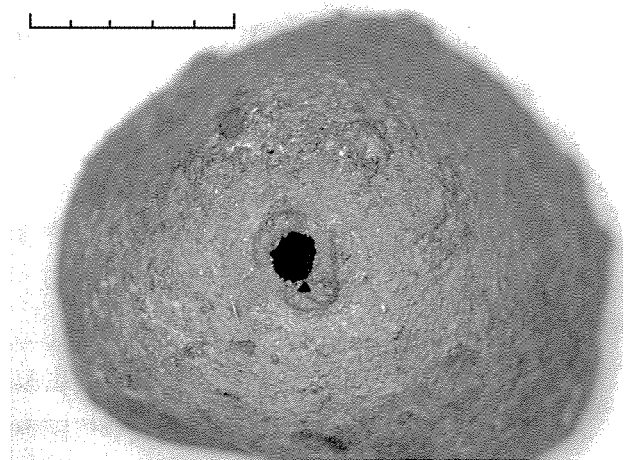


写真2 同上部分

に覆われる。金銅製のものは破損が著しいものの、完形近くに復元できた個体では銀製のものとほぼ同じ形状、寸法で、やはり両端に孔を持つ。全体に緑青に覆われるが、部分的に金色の光沢が残る。

金属製の空玉は県内で管見に触れたところでは19の出土例が見られるが、調査された古墳の総数からみれば類例はそれほど多いものではない。出土する地域を見ると全体の半数を超える9例が宗像市、宗像郡域に集まっており、その集中ぶりが目に付く。材質では銀製が最も多いが、金銅製や金製と見られるもの（城ヶ谷17号墳）もある。形態も球を呈するものが一般的であるが、稜線を持つもの（山の前1号墳）、縦長の卵形を呈するもの（鬼塚2号墳他）など若干のバリエーションが見られる他、平玉状のもの（隼人塚・城ヶ谷17号墳）も少数ながら認められる。出土する古墳は前方後円墳が1基ある他はいずれも円墳で、主体部は全て横穴式石室である。時期的にはいずれも6世紀中頃以降の須恵器を出土する古墳であり、耳環等、金、銀の輝きを主体とする装身具の流行と軌を一にするものと捉えられる。馬具や弓金具を伴出する例が多く（馬具は13/19、弓金具は8/19）、特に金銅装の馬具が目立つ。更には金製細型耳環や蛇行状鉄器など半島との繋がりを想起させる遺物や、金銅装の飾り大刀など権威の象徴である遺物を持つ古墳が含まれており、その希少性と相まって金属製空玉を所有する被葬者の地位の高さが窺われる。

市内では三苦A-1号墳（三苦京塚古墳）で銀製で半欠状態のものが1点ある以外に確認されておらず、更に金銅製にいたっては初出と思われる。また三苦A-1号墳も著しい盗掘を受けながらも装飾性の高い大刀や馬具が出土するなど県内の状況を裏付けており、東油山E-1号墳の重要性を示す内容となっている。

次に金工技術の観点から見てみたい。金属製空玉の製作技法については塚本敏夫氏や依田香桃美氏らの研究がある（塚本1994・依田2000）。

塚本氏は保存科学的な視点により静岡県団子塚9号墳出土銀製空玉の観察、分析を行い、また依田氏は金作家として鳥根県鷲ノ湯病院横穴出土品の復元品製作を行う過程において、それぞれ異なる立場で考察を行っている。両者に共通しているのは半球状に叩き出し端部を整形した部材を接着するという方法である。ここでの接着には有機質ではなく、金属の溶解によるものが想定される。塚本氏は接合部の分析から、接合には本体と同じ高純度の銀が用いられたとされている。

これらを踏まえた上で東油山出土例を見てみると、完形品は腐蝕生成物で覆われ、細かい技法の観察は困難である。しかし球の半ば部分に接合痕と見られる細いみみず腫れ状の突出が廻り、また破損した個体では部材を接合した状況が明瞭に観察できることから同様の製作技法が想定される。また頂部に穿たれた孔は外面に捲れの生じているものが大多数を占めており、内側からポンチの様なもので開けられたことを示している。この点も、団子塚例等に共通する技法である。部材の厚さは破損した個体でデジタルマイクロスコープの画面上における計測機能を用いて計ったところ、腐蝕生成物を含んだ部分では0.5~0.7mmに及ぶ。しかし詳細に観察すると腐蝕層の下層に白金色に光る腐蝕を免れたであろう部分が見えており、この破断面で計測したところでは薄い部分で0.13mm、厚いところでも0.25mmという数値が得られており、本来よりも錆により膨れていることが窺える。また蛍光X線による材質調査によれば、腐蝕層の見られない金属光沢を有する部分では、銀の強いピークが見られる他、若干の鉄が検出される。更に銅や金の部分にも僅かながらピークがあり、これらの元素も微量ながら含まれるようである。破損した個体で接合部分の分析も数カ所試みたが、特に銅が強くなったり、異なる元素が検出されるような現象は認められず、現状では鑑（銀鑑=銀と銅の合金）付けの痕跡は確認できなかった^{註1)}。なお腐食層に覆われた部

分では銀と共に強い臭素のピークが有り、この部分が臭化銀となっていることが考えられる。

一方の金銅製空玉も遺存状況は極めて悪いが、破損部分から内部を見ると、やはり上下を接合して球体に成形していることが看取される。部材の厚さはこちらの場合、本来の厚さを示す部分が見られず腐食部分の数値であるが、0.3~0.5mmとなっている。

材質調査は、やはり状況の異なる幾つかの部分で試みた。まず外面の金の残存部では金、水銀、銅と若干の銀が検出され、観察とも併せて銅の素材に鍍金を施したものと考えられる。また接合部分では銅の他に砒素や銀が検出されている。砒素は耳環の芯材の銅でも度々明瞭に検出される元素であり、銅に含まれる不純物の可能性が考えられる。銀は特に接合部分で強く検出される箇所もあり、銀鑑の存在を示すものとも思われたが、接合部以外の内面でも検出される部分があり、また接合部を含んだ箇所の面分析（マッピング）でも特に接合部に銀が偏析する状況は認められず、鑑付けされていることを断定するには至らなかった。金銅製の空玉は個体数も少ない上に形状や破損状態から分析可能な部分が限られることもあり、細かい調査が行えなかったことは悔やまれる。

金属製空玉は類例が限られるが、より細かい部分での製作技法や材質の比較により、系譜や流通状況が解明されることが期待される。今後とも注目していきたい。

東油山古墳群では、他にも2号墳で鑷子が出土している。これも装身具としての用途が想定されるが、用途や系譜などは完全に解明されたものではなく謎の多い資料である（宇野1985）。毛抜きや簪としての装身具の他、大刀の吊り金具、馬具などの説もある。市内で古墳時代の事例としては博多区貝花尾1号墳（飛高他1977）、南区桧原1号墳（吉留1997）等に次いで5例目の出土で、今後の研究に向けて注目される資料である。

博多124次、藤崎32次、博多138次では緡銭の

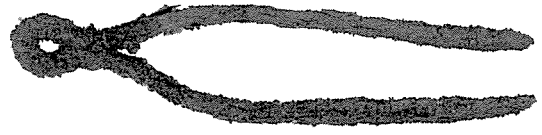


写真3 東油山E-2号墳出土の鑷子

保存処理を行った。それぞれ約20枚、61枚、9枚とそれほど大規模ではないが、かといって決して普遍的な資料でもない。これらは繋がった状態も貴重であると同時に、銭1枚ごとの情報も必要である。通常のように緡の状態を実測、写真撮影を行った後に銭の分解を行うと、当初の繋がった状況は二次元の記録でしか残すことができない。そこで今回は、緡の状態でのレプリカを作成し、元の状態を三次元的に残すことを試みた。

作業はまず、緡の状態で大まかなクリーニングを行った後、表面をアクリル樹脂（パラロイドB-72）でコーティングし、保護膜を形成する。更にこれを脱泡した付加タイプシリコーン（信越シリコーン：KE-1300T+CAT-1300）に封入し、シリコーンが硬化後、外側から切開して内部の資料を取り出し雌型を作成した。

その後、できあがった雌型に鉄粉入りエポキシ樹脂（国際ケミカル：ポップメタル）を注入し、雄型を製作した。今回は三次元的な形状記録を目的としたため雄型の成形のみで着色は行っていないが、事前の写真などを元に着色を行えば、より臨場感をもったレプリカとして機能することになる。

現在、文化財の分野で用いられるレプリカの使用は、展示における一次資料の補完が主要な目的を占めている。しかしレプリカには失われる情報の記録保存という側面もあり、この部分を積極的に利用することによって、資料活用の

幅がより広がるものと考える。

この他、藤崎32次では弥生～古墳の墳墓から



写真4 緋銭レプリカ（型と成形品）

採取された赤色顔料の調査を行った。この内、大正時代に破壊された方形周溝墓主体部では、遺構をメッシュで分割してサンプリングしたものを調査したところ、墓壙周辺ではベンガラ、主体部北側では朱の集中が認められ、遺構にベンガラを、被葬者頭部に朱を用いた状況が推定復元される結果となった。

また箱崎22次では中世の木棺墓から出土した副葬品の保存処理と、その中の湖州鏡に付着した繊維の調査を行ったが、その結果、この繊維は絹織物で、経糸を三つ編み状に絡ませる特殊な織り方であることが明らかとなり、当時の公家装束に用いられる織物との共通性が指摘された。

詳細はそれぞれの福岡市埋蔵文化財調査報告書を参照されたい。

(4) その他の作業について

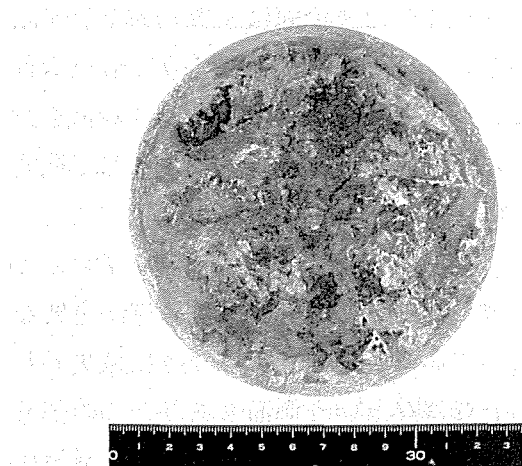


写真5 箱崎22次出土湖州鏡

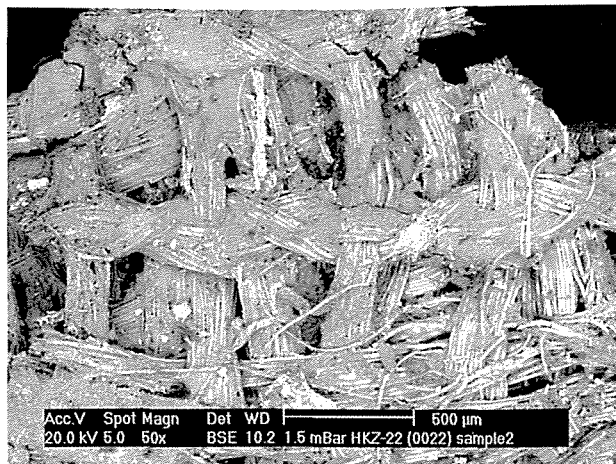


写真6 付着繊維の電子顕微鏡写真

埋蔵文化財センターでの作業の他、発掘調査現場での作業も行っている。その内容は表6の通りである。今年度は遺物の取り上げや出土遺物の応急処置に関する対応など、小規模なものが中心となったが、その様な中で広瀬遺跡1次調査では中世の土師器焼成遺構複製のための型取り作業が行われた。遺構は縦2.1m、横1.8mの隅丸長方形に浅く掘られた焼土坑で、内部には土師器の皿などが数点残されている。土器類を保護した後、シリコンゴムを遺構を含めた2.5m×2mの範囲に塗布し、ポリエステル樹脂によるバックアップを施した。出来上がった雌型は埋蔵文化財センターに移動し、次年度以降に成形～仕上げ作業を行う予定である。

また、やや変わった作業としては文化財整備



写真7 遺構型取り風景

課からの依頼で、福岡城大手門の解体工事に伴い部材に書かれた墨書の赤外線カメラによる観察を行った。通常、小型の資料は埋蔵文化財セ

ンターに持ち込み観察が行われるが、今回の場合は数m大の巨大な建築部材が中心で移動が不可能なため、解体現場にカメラを持ち込んでの作業となった。肉眼では観察の困難な文字も浮かび上がり、有益な成果が得られた。

(5) 外部からの施設利用

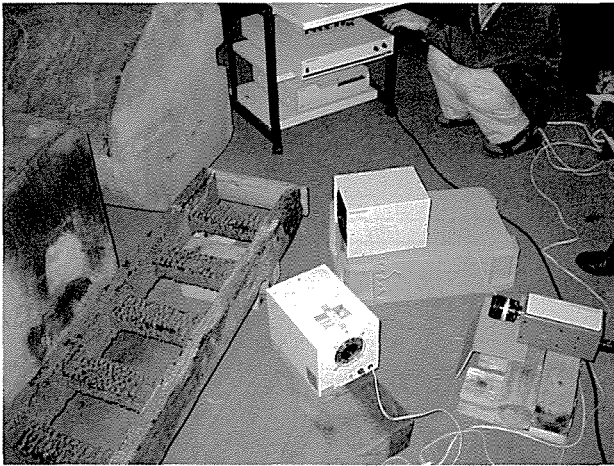


写真8 大手門部材の赤外線カメラ調査

平成11年度に導入された様々な文化財用事前調査機器類は、九州地域の埋蔵文化財関連施設では初めて導入されるものもあり、周辺地域自治体等を中心に利用の問い合わせが多く寄せられてきたため、利用基準（巻末参照）を定め、この範囲内で施設使用を許可する事としている。

今年度は九州歴史資料館、太宰府市、古賀市、筑紫野市、春日市、行橋市の他、熊本県、山口県、長崎県鷹島町の各教育委員会など近隣や北部九州を中心とした自治体の利用があった。紙幅の都合により内容は割愛するが、外部からの利用は単に施設や機器を使ってもらうことに止まらず、それに際して資料に関する様々な情報や、作業に伴って生じるデータを得られる利点がある。文化財は現行の行政区分とは結びつかずに流通、使用されていたものであり、本市の文化財を理解するためには自治体の枠を超えての情報交換が必要となる。今後も当センターの業務に支障を来さぬ範囲で外部からの利用を受け入れて行きたいと考える。

なお最後になりましたが、今年度も保存処理作業では前記の方々以外にも多くの方々にご指

導、ご協力を頂きました。ここに全てを記すことはできませんが、深く御礼申し上げます。

註1) 古墳時代の鏝付けについては村上隆氏の研究によりその存在が明らかにされている（村上2003）。

[参考文献]

- 宇野慎敏1985「鏝子考」『末永先生米寿記念献呈論文集』末永先生米寿記念会
- 塚本敏夫1994「銀製空玉の製作技法」『団子塚9号墳出土遺物保存処理報告書』静岡県袋井市教育委員会・財団法人元興寺文化財研究所
- 飛高憲雄・井澤洋一(編)1977『席田遺跡群 第1次発掘調査概報』福岡市埋蔵文化財調査報告書第44集 福岡市教育委員会
- 村上隆2003『日本の美術4』No.443金工技術 至文堂
- 吉留秀敏(編)1997『松原遺跡－松原古墳群第1次・松原遺跡第3次調査報告書－』福岡市埋蔵文化財調査報告書第540集 福岡市教育委員会
- 依田香桃美2000「古墳時代の装飾品の復元制作について－2種類の空玉の場合－」『八雲立つ風土記の丘』No.163 島根県立八雲立つ風土記の丘

表5 平成15(2003)年度保存処理金属器一覽

処理No.	遺物No.	資料名	材質	時代	報告書Fig	処理方法
蒲田水ヶ元(調査番号:7514 市報491集)						
19599	20001	方格規矩鏡	銅・青銅	弥生後期	131	事前調査・クリーニング・樹脂含浸
板付54次(調査番号:8866 市報410集)						
19600		ガラス小玉	ガラス	弥生前期後半?	未図化	事前調査・クリーニング
19601		ガラス小玉	ガラス	弥生後期後半~終末	未図化	事前調査・クリーニング
19602		ガラス小玉	ガラス	弥生前期末	未図化	事前調査・クリーニング
19603		ガラス管玉	ガラス	弥生	未図化	事前調査・クリーニング
博多117次(調査番号:9919 市報667集)						
19604	186	ガラス埴塙片	ガラス	中世	37-4	材質調査
19605	259	ガラス埴塙片	ガラス	中世	未図化	材質調査
19606	1183	ガラス埴塙片	ガラス	中世	40-6	材質調査
19607	1814	ガラス容器片	ガラス	中世	40-11	材質調査
19608	1815	ガラス溶解片	ガラス	中世	40-10	材質調査
19609	1816	ガラス溶解片	ガラス	中世	40-9	材質調査
19610	1817	ガラス小玉	ガラス	中世	未図化	材質調査
下月隈C5次(調査番号:9922 市報795集)						
19611	80001	貨泉	銅・青銅	弥生~古墳	99-80001	材質調査
博多124次(調査番号:0006 市報758集)						
19612		繒銭	銅・青銅	中世	未図化	樹脂含浸・複製製作
19613		包丁	鉄	中世	未図化	クリーニング・樹脂含浸
19614~19619		錫製徳利(3点)	その他金属	中世(16C後半)		事前調査・クリーニング・樹脂含浸
箱崎22次(調査番号:0022 市報811集)						
19617		素文鏡	銅青銅	中世(12C後半)	91-716	事前調査・クリーニング・樹脂含浸
19618		短刀	鉄	中世(12C後半)	89-695	事前調査・クリーニング・樹脂含浸
19619		和鉄	鉄	中世(12C後半)	89-696	事前調査・クリーニング・樹脂含浸
井尻B17次(調査番号:0027 市報787集)						
19620		大型鎌	鉄	弥生後期中頃~後半	10-016	クリーニング・樹脂含浸
19621		石戈	その他	弥生	68-141	クリーニング・樹脂含浸
樋井川B1次(調査番号:0105 市報819集)						
19622	3001	赤色顔料	その他	古墳前期	未図化	材質調査
19623・19624	4001・4002	摘み鎌(2点)	鉄	古墳前期	49-18・19	クリーニング・樹脂含浸
19625・19626	4004・4005	摘み鎌・鉄鎌	鉄	古墳前期	72-14・15	クリーニング・樹脂含浸
箱崎26次(調査番号:0108 市報815集)						
19627		短刀	鉄	中世	124-634	クリーニング・樹脂含浸
19628		毛抜き	鉄	中世	124-635	クリーニング・樹脂含浸
19629		不明有孔円板状鉄製品	鉄	中世	未図化	クリーニング・樹脂含浸
19630		馬具(轡引手)	鉄	中世(11C後半)	99-377	クリーニング・樹脂含浸
19631		銅銭(元聖通寶)	銅・青銅	中世(13C後半)	108-487	クリーニング・樹脂含浸
19632		鈴	銅・青銅	中世(12C前半)	115-554	クリーニング・樹脂含浸
19633		短刀	鉄	中世(12C後半)	57-164	クリーニング・樹脂含浸
19634		火打ち金	鉄	中世(12C後半)	57-163	クリーニング・樹脂含浸
19635~19647		鉄釘(13点)	鉄	中世(12C後半)	57-165~177	クリーニング・樹脂含浸
19648~19651		鉄釘(4点)	鉄	中世	未図化	クリーニング・樹脂含浸
19652		不明棒状鉄器	鉄	中世	未図化	クリーニング・樹脂含浸
19653		銅銭(開元通寶模鑄?)	銅・青銅	中世	64-207	クリーニング・樹脂含浸
19654~19678		鉄釘(25点)	鉄	中世(13C前半)	75-257・259~282	クリーニング・樹脂含浸
19679		不明棒状鉄器	鉄	中世(13C前半)	75-258	クリーニング・樹脂含浸
橋本一丁田4次(調査番号:0136 市報816集)						
19680		石剣	その他	縄文晩期	72-551	クリーニング・樹脂含浸
箱崎29次(調査番号:0202 市報813集)						
19681		銅銭(開元通寶)	銅・青銅	中世	13-75	クリーニング・樹脂含浸
19682		銅銭(永楽通寶)	銅・青銅	中世	12-37	クリーニング・樹脂含浸
東油山古墳群E群(調査番号:0212 市報823集)						
19683~19685	2108~2110	鉄刀(3点)	鉄	古墳後期	16-174~176	クリーニング・樹脂含浸
19686	2111	鉄刀	鉄	古墳後期	29-263	クリーニング・樹脂含浸
19687~19689	7001・7002・7004	歯冠(3点)	動物遺体	古墳後期	未図化	クリーニング・樹脂含浸
19690~19700	3024~3034	銀製空玉(11点)	その他金属	古墳後期	13-18~28	事前調査・クリーニング
19701・19702	3035・3036	金銅製空玉(2点)	銅・青銅	古墳後期	13-29・30	事前調査・クリーニング・樹脂含浸
19703~19707	3136~3140	銀製空玉(5点)	その他金属	古墳後期	未図化	事前調査・クリーニング
19708~19718	3001~3011	耳環(11点)	銅・青銅	古墳後期	13-7~17	事前調査・クリーニング・樹脂含浸
19719~19800	3037~3118	ガラス小玉(82点)	ガラス	古墳後期	13-31~112	材質調査・クリーニング
19801~19808	3119~3126	ガラス小玉(8点)	ガラス	古墳後期	未図化	材質調査・クリーニング
19809~19848	2001~2040	鉄鏃(40点)	鉄	古墳後期	14-114~153	クリーニング・樹脂含浸
19849~19858	2041~2051	刀子(10点)	鉄	古墳後期	15-154~163	クリーニング・樹脂含浸
19859	2052	不明鉄器(小型鎌子片?)	鉄	古墳後期	15-170	クリーニング・樹脂含浸
19860~19862	2053~2055・2057~2059	刀装具(6点)	鉄	古墳後期	15-166~169	クリーニング・樹脂含浸
19863	2056	弓金具	鉄	古墳後期	15-171	クリーニング・樹脂含浸
19867	2060	袋状鉄斧	鉄	古墳後期	15-172	クリーニング・樹脂含浸
19868	2061	U字形鋤先	鉄	古墳後期	15-173	クリーニング・樹脂含浸
19869~19929	6001~6039・6041~6954・6056~6060	鉄鏃片他(61点)	鉄	古墳後期	未図化	クリーニング・樹脂含浸
19930	6091	不明鉄器(馬具?)	鉄	古墳後期	未図化	クリーニング・樹脂含浸
19931~19942	3012~3023	耳環(12点)	銅・青銅	古墳後期	27-207~218	事前調査・クリーニング・樹脂含浸
19943~19962	2062~2081	鉄鏃(20点)	鉄	古墳後期	28-226~229・231~246	クリーニング・樹脂含浸
19963~19973	2082~2092	刀子(11点)	鉄	古墳後期	29-247~257	クリーニング・樹脂含浸
19974~19979	2093~2098	鉄鏃(短頸三角)	鉄	古墳後期	28-221~225・230	クリーニング・樹脂含浸
19980	2099	鎌子	鉄	古墳後期	29-258	クリーニング・樹脂含浸

処理No.	遺物No.	資料名	材質	時代	報告書Fig	処理方法
19981~19983	2100~2102	馬具・鏡・具(3点)	鉄	古墳後期	29-259~261	クリーニング・樹脂含浸
19984	2103	刀装具(無窓鏝)	鉄	古墳後期	29-262	クリーニング・樹脂含浸
19985	2104	袋状鉄斧	鉄	古墳後期	29-264	クリーニング・樹脂含浸
19986	2105	刀子	鉄	古墳後期	29-267	クリーニング・樹脂含浸
19987	2106	鉄鏃?	鉄	古墳後期	29-266	クリーニング・樹脂含浸
19988	2107	鉄鏃?	鉄	古墳後期	29-265	クリーニング・樹脂含浸
19989~20005	6065・6067・6070・6071・6075~6085・6087・6088	鉄鏃他破片(17点)	鉄	古墳後期	未図化	クリーニング・樹脂含浸
箱崎31次 (調査番号: 0214 市報813集)						
20006		銅銭(太平通寶)	銅・青銅	中世	27-187	クリーニング・樹脂含浸
20007		銅銭(判読不能)	銅・青銅	中世	27-188	クリーニング・樹脂含浸
20008		銅銭(半欠・判読不能)	銅・青銅	中世	27-189	クリーニング・樹脂含浸
博多138次 (調査番号: 0220 市報806集)						
20009~20017	50023~50031	銅銭(9点)	銅・青銅	中世	未図化	樹脂含浸・複製製作
比恵79次 (調査番号: 0233 市報821集)						
20018		漆膜?付着須恵器	その他	古代(8C)	38-146	樹脂含浸
藤崎32次 (調査番号: 0237 市報824集)						
20019~20041		赤色顔料?(23点)	その他	古墳前期	未図化	材質調査
20042~20047		赤色顔料?(6点)	その他	弥生前期末~中期初頭	未図化	材質調査
20048		石棺材(赤色顔料付着)	その他	古墳前期	未図化	材質調査
20049~20109		銅銭(寛永通寶)・鉄銭他(61点)	銅・青銅	近世	50-1~61	樹脂含浸・複製製作
箱崎38次 (調査番号: 0206 市報814集)						
20110	3001	不明銅製品(半球状)	銅・青銅	中世	6	クリーニング・材質調査
20111・20112	3002・3003	銅銭(祥符通寶)(2点)	銅・青銅	中世	23	クリーニング・材質調査
20113	3004	銅銭(大観通寶)	銅・青銅	中世	23-202	クリーニング・材質調査
20114	3010	ガラス溶解片	ガラス	中世	未図化	クリーニング・材質調査
西新町16次 (調査番号: 0322 未報告)						
20115		ガラス丸玉(トンボ玉)	ガラス	弥生中期中頃?		クリーニング・材質調査
金武城田2次 (調査番号: 0329 未報告)						
20116		銅鏡(細線文獣帯鏡)	銅・青銅	古墳中期(5C前半)		クリーニング・樹脂含浸
20117~20119		鉄釧(3点)	鉄	古墳中期(5C前半)		クリーニング・樹脂含浸
20120		刀子	鉄	古墳中期(5C前半)		クリーニング・樹脂含浸
20121		銅椀	銅・青銅	古代		事前調査・クリーニング・樹脂含浸

表6 平成15(2003)年度 現場作業一覧

現場名	調査番号	所在地	時代	作業内容	作業完了日
1 浦江5次	0144	西区金武	古墳後期	金属器類保存処理打合せ	20030423
2 金武・城田2次	0329	西区金武	古墳後期	青銅鏡取り上げ・保存処理打ち合わせ	20030521
3 比恵82次	0308	博多区	弥生中期前半	木製品保存処理打ち合わせ	20030715
4 西新町16次	0322	早良区西新	弥生中期前半	ガラス玉保存、調査打ち合わせ	20030801
5 箱崎40次	0318	東区	中世	和鏡保存処理打合せ	20030806
6 広瀬1次	0326	西区石釜	中世	土器焼成遺構複製	20031003
7 博多144次	0334	博多区	中世	人骨保存処理打合せ	20031007
8 箱崎42次	0351	東区	中世	人骨取り上げ	20031007
9 久保園3次	0350	博多区	中世	短刀取り上げ	20031030
10 元岡31次	0242	西区元岡	古代	遺構保存打合せ	20031105
11 箱崎42次	0351	東区	中世	人骨取り上げ	20031106
12 福岡城大手門	-	中央区城内	近世	部材墨書赤外線カメラ撮影	20040115
13 雑餉隈15次	0349	博多区新和町	弥生初頭	脆弱土器保存処理打合せ	20040225

表7 銀製空玉の蛍光X線分析結果

資料	遺物番号	分析箇所	分析条件 主要元素を100とした場合の各元素のX線相対強度								
			kV	uA	Fe	Cu	As	Au	Hg	Ag	主要元素の強度(cps)
銀製	3139	point1 接合部破断面	40	200	1.18	4.13	-	1.97	-	100.00	309.41
銀製	3139	point2 接合部ではない破断面	40	160	1.31	3.84	-	3.51	-	100.00	278.65
銀製	3139	point3 内面任意	40	200	1.62	4.64	-	5.62	-	100.00	326.39
銀製	3139	point4 内面接合部	40	180	2.06	1.01	-	2.35	-	100.00	302.59
銀製	3139	point5 内面任意	40	160	1.26	4.27	-	3.27	-	100.00	281.33
銀製	3140	point1 内面任意	40	160	2.80	1.64	-	4.79	-	100.00	261.36
銀製	3140	point2 接合部破断面	40	160	2.13	1.74	-	2.84	-	100.00	251.62
銀製	3140	point3 外面腐食層	40	160	10.24	0.77	-	0.18	-	100.00	267.12
銀製	3140	point4 外面オリジナル面	40	160	1.90	1.97	-	4.55	-	100.00	304.53
銀製	3140	point5 内面接合部	40	200	3.02	2.42	-	2.29	-	100.00	283.64
金銅製	3035	point1 内面接合部	40	30	0.52	100.00	1.74	-	-	0.20	1293.61
金銅製	3035	point2 接合部ではない破断面	40	20	0.36	100.00	0.08	-	-	+	1715.57
金銅製	3035	point3 内面接合部	40	20	0.60	100.00	0.58	-	-	0.71	1711.03
金銅製	3035	point4 外面金残存部	40	100	2.12	100.00	-	169.35	30.56	0.72	235.11
金銅製	3035	point5 内面と断面の境目	40	20	0.77	100.00	-	+	+	0.17	1925.20
金銅製	3035	point6 内面任意	40	40	0.49	100.00	0.27	-	-	+	1445.88

-は未検出、+は相対強度が0.1以下を示す

分析装置: エダックス・Eagle- μ plobe、管球: モリブデン(Mo)、分析範囲: 0.3mm ϕ 、雰囲気: 真空、分析時間300秒

表8 福岡県内出土の金属製空玉一覧

古墳名	報告書	所在地	墳形	最大長	主体部	空玉	土器	玉類	耳環	鍔子	農工具	鉄鏃	刀剣	弓金具	甲冑	馬具	その他	須恵器型式
隼人塚	行橋市12集	行橋市	大字高瀬	前方後円	39.0	横穴式石室 (両袖・複室)	銅芯銀貼平1	○	◎1〇5		斧2・刀子片 1	△	○	○4		○	砥石	IIIb・IVa
東田1号墳	岡垣町1977年	遠賀郡	岡垣町大字高倉字東田 597	円	11.0	横穴式石室 (両袖・単室・若干 胴張)	銀10	△		◎2	刀子2+α							IIIa
城ヶ谷17号墳	糸ヶがし1977年	宗像市	大字三郎丸字大田原	円	10.0	横穴式石室 (両袖・単室)	金?平2	○▲	●3		刀子片							IIIb
大井三倉2号墳	宗像市11集	宗像市	大字田熊	円		横穴式石室 (両袖・単室)半壊	銀1	○▲	◎11●58○27	○3	・刀子片 2・鍔	○	△			△	釘?	IVa・IVb
大井三倉5号墳	宗像市11集	宗像市	大字田熊	円	12.0	横穴式石室 (両袖・単室)	銀1	○▲	◎1〇39●29		刀子1・斧 1・鍔	○	△			○※B		IIIb
名残高田6号墳	宗像市24集	宗像市	大字名残・富地原・徳 重	円	12.0	横穴式石室 (両袖・単室)半壊	金銅1	◎	●16◎			△					石突?・目釘	IIIa~IVa
田久瓜ヶ坂4号墳	宗像市46集	宗像市	大字田久字サヤ峠1他	円		横穴式石室 (両袖・単室)	銀5		◎7●15○682		刀子5	△	△			◎	不明鉄器	
清田ヶ浦6号墳	津屋崎町1集	宗像郡	津屋崎町大字津屋崎字 清田ヶ浦	円	12.0	横穴式石室 (両袖・単室)	銀片1	×	○6	○1		×					×鉄鏃	
清田ヶ浦11号墳	津屋崎町1集	宗像郡	津屋崎町大字津屋崎字 清田ヶ浦	円	9.0	横穴式石室 (両袖・単室)半壊	金銅1	×	◎4+α●3○8		刀子2	×	×			×		
勝浦高原S0-03	津屋崎町13集	宗像郡	津屋崎町大字勝浦143	?		横穴式石室 (両袖・複室)	銀2	◎	◎11○18●41			△	△	○2				IVa
飛塚1号墳	福教大1974年	宗像郡	福岡町大字久末字飛塚 29	円	12.0	横穴式石室 (両袖・単室)	銀1	◎	◎3○15●13		刀子4片	○	△				石突or鉄鏃	
岩永浦1号墳	宇美町1981年	糟屋郡	宇美町大字井野字観音 浦・岩永浦	円	14.0	横穴式石室 (両袖・単室)半壊	銀1	○※C	◎4○59●4	◎2○4	刀子	△	○			◎		IVb~VI
西堂古賀崎	前原市51集	前原市	大字西堂字深町909	円?	20.0	横穴式石室 (両袖・単室)	銀4	◎※D	◎11○85	○1	斧・刀子・ 鋤先	○	◎			◎	金銅製の金具	IIIa
赤坂・鳥毛1号墳	夜須町50集	朝倉郡	夜須町大字赤坂字鳥毛	円	24.0	横穴式石室 (両袖・単室)	銀3?	○	◎○●総数350以 上	◎4○7	△1 刀子・ヤリガ ナ・鑿・鉗片	△	△	○5		●	砥石	IIIb・IVa
山田A-1号墳	横断道23集	朝倉郡	朝倉町大字山田字平 川・長田・浦山	円	10.0	横穴式石室 (両袖・複室・胴張)	銀2	◎	◎18○140+α● 42	○16	△1 刀子3	○	△	○1		△		IIIb~IVb
山の前1号墳	縦貫道3集	八女郡	広川町大字広川	円	16.0	横穴式石室 (両袖・複室・胴張)	銀1	◎	◎3○30	○3		○		○1		◎		IVb~V
鬼塚2号墳	広川町5集	八女郡	広川町大字新代字鬼塚	不明		横穴式石室 (両袖・複室・胴張)	金銅6+α	○	◎43○95	○6	刀子	○	●	○2		○		IVa・IVb
三苦A-1号墳	福岡市243集	福岡市	東区三苦7丁目	円	15.0	横穴式石室 (両袖・単室)	銀片1	○	◎3○1	○1	刀子1+α	△	◎	○3		◎	不明鉄器	IVa
東油山E-1号墳	福岡市824集	福岡市	南区松原6丁目	円	15.5	横穴式石室 (両袖・単室)	銀16・金銅 2	○	◎1○90	○11	刀子9片・斧 1・鋤先	○	△	○1		△		IVb

◎須恵器、土師器両方(=土器)・石製(=玉類)・金製(=耳環)・金銅装(=刀剣・馬具)

○須恵器(=土器)・ガラス製(=玉類)

●土師器(=土器)・土製(=玉類)・象嵌装飾(=刀剣)・貝装飾(=馬具)

△破損品

×小片

※A: 耳環は複環式で須恵器に土師器を被せた中から出土

※B: 蛇行状鉄器含む

※C: 騎馬人物像を線刻した提瓶を含む

※D: 器台、子持ち壺含む

3. 補遺—老司古墳出土の壺形埴輪—

老司古墳は、これまで4次にわたる発掘調査が行なわれた。九州大学考古学研究室を主体とする1966年・67年・69年の3次にわたる調査と、福岡市教育委員会を主体とする1987年度の重要遺跡確認調査である。

石室内出土の銅鏡や短甲・馬具などの副葬品や碧玉製勾玉をはじめとする装身具類は、那珂川水系の盟主にふさわしい豊富な内容で注目をあつめた。また堅穴系横口式といわれる石室の構造は、日本における横穴式石室の源流を考えるうえでも重要で、資料的な価値はたかい。

古墳の構造や出土遺物については、1989年の報告書において事実報告がなされた(山口ほか1989)。この報告書が校了後に発見された遺物については、追加資料として東光寺剣塚古墳のなかに所収されているが、このことは広く知られていないようだ(吉留1991)。

老司古墳は2000年12月20日、国史跡に指定された。史跡指定に伴い出土遺物を福岡市教育委員会で一元的に管理する方向で意見調整がなされた。資料の保管先であった九州大学考古学研究室と九州歴史資料館(福岡県教育委員会)の協力を得て、2002年度に資料の大部分が福岡市埋蔵文化財センターへ搬入された。

このうち埴輪を主体とする土製品や土師器について、接合によって新たに器形が明らかになった資料や、同一個体として確認できた資料がみられたため、再度復元を実施し、一覧表に整理した。ここに年報の誌面をかりて報告を行なうものである。

1は、有孔双耳壺と蓋である。報告書で、椀として図化された破片を今回、双耳壺の蓋として図化した。色調などから同一個体と考えられ、有孔双耳壺は、全体の約3分の1、蓋は約5分の1を現存する。胎土に石英粒のほか黒色の粒子を含む点は、壺形埴輪と共通する特徴である。福岡市内出土の有孔双耳壺は、比恵遺跡群7次

調査、飯倉F遺跡3次調査の包含層、野芥大藪遺跡1次調査の土坑や鋤崎古墳の墳丘で確認されている。福岡市西郊の鋤崎古墳が、老司古墳と同様、内部主体に堅穴系横口式石室を採用している点は注目される。

2は、二重口縁形の埴輪の口縁部である。屈曲部との接合を強化するために調整具によって刻み目が列状に回らされている。

3は、単口縁形の埴輪の口縁部である。外面に赤色顔料を塗布した痕跡がある。

4は、二重口縁形の埴輪の頸部とされていたが、単系の口縁部と接合した。さらに胴部以下も接合され、全形の復元が可能になった。肩の上半部まで所々に赤色顔料の付着がみられる。全体の6割程度を遺存する。口縁下部の接合部の観察には最適な状態で復元している。

5・6は、壺形埴輪の底部である。底部の穿孔が径2cm代の小さなタイプが、埴輪全体に占める割合は少なく、全形を復元できる資料もない。6は、従来2個体とされていたものが接合した。外面には叩き成形の痕跡がみられる。

7は、壺形埴輪の底部である。底部の穿孔が径8cm程度をはかるタイプは、老司古墳の壺形埴輪の主流である。胴部近くの破片が接合したため再実測を行なった。ハケ目は1cmあたり3本程度のきわめて粗い間隔である。

8は、壺形埴輪の胴部だが、二重口縁形か単口縁形か断定できない。肩の一部には赤色顔料が付着している。

当センターでは、遺物番号として調査番号に5桁の数字で表している。遺物番号は、収蔵用の報告書だけに記されている場合がほとんどなので、資料閲覧をご希望の方は、報告書の挿図番号を明記していただければ対応できるシステムになっている。今後、老司古墳の埴輪について資料の閲覧を希望される場合、上にあげた2

冊の報告書に加えて小文も参考にしていただければ幸いです。

【文献】

久住猛雄2002「(6) 墳丘出土土器 鋤崎古墳」『福岡市埋蔵文化財調査報告書』第730集、福岡市教育委員会

山口讓治・吉留秀敏・渡辺芳郎(編)1989「老司古墳」『福岡市埋蔵文化財調査報告書』第209集、福岡市教育委員会

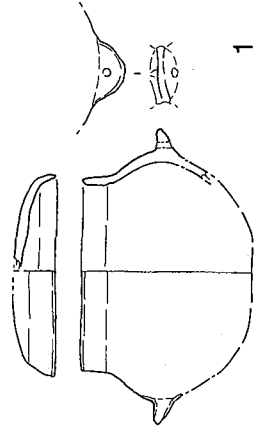
山崎龍雄1994「飯倉F遺跡 一第3次調査一」『福岡市埋蔵文化財調査報告書』第379集、福岡市教育委員会

山崎龍雄1998「野芥大藪遺跡 一第1次調査一」『福岡市埋蔵文化財調査報告書』第581集、福岡市教育委員会

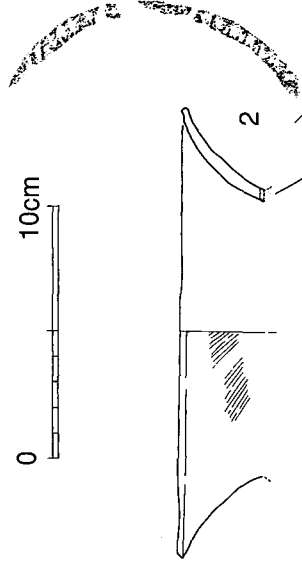
吉留秀敏(編)1991「東光寺剣塚古墳」『福岡市埋蔵文化財調査報告書』第267集、福岡市教育委員会

老司古墳出土の埴輪一補遺一覽一

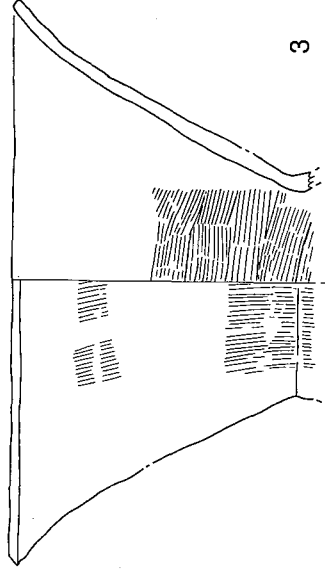
	遺物番号	器種	掲載文献	挿図番号	備考
1	10234	有孔双耳壺	東光寺剣塚	34-27・28	27は、傾きを検討した結果、蓋として図化。
2	10238	埴輪の口縁(二重口縁系)	東光寺剣塚	33-13・15	同一個体と判明したため再実測。
3	10239	埴輪の口縁(単口縁系)	老司古墳	26-22・26	同一個体と判明したため再実測。
4	10233	埴輪(短口縁系)	東光寺剣塚	33-16	二重口縁系の破片ではなく、ほぼ完形の単口縁系の器種と判明した。
5	10236	埴輪の底部	東光寺剣塚	33-21・22	同一個体と判明したため再実測。
6	10235	埴輪の底部	東光寺剣塚	33-19・20	33図-20は、33図-19の一部で欠番とする。
7	10237	埴輪の底部	東光寺剣塚	33-23	接合により形状が変わったため再実測
8	10240	埴輪の胴部		未図化	未図化の資料で、No47の資料。
—	10017	埴輪(二重口縁系)	老司古墳	25-17	26図-25は、25図-17の一部なので欠番とする。



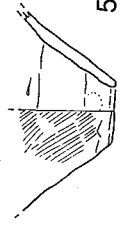
1



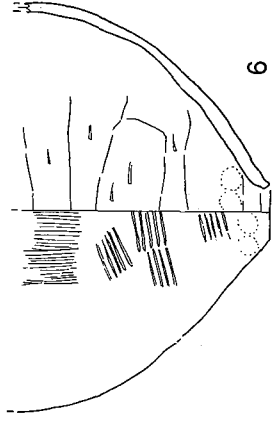
2



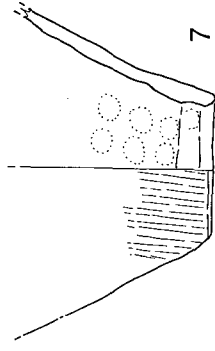
3



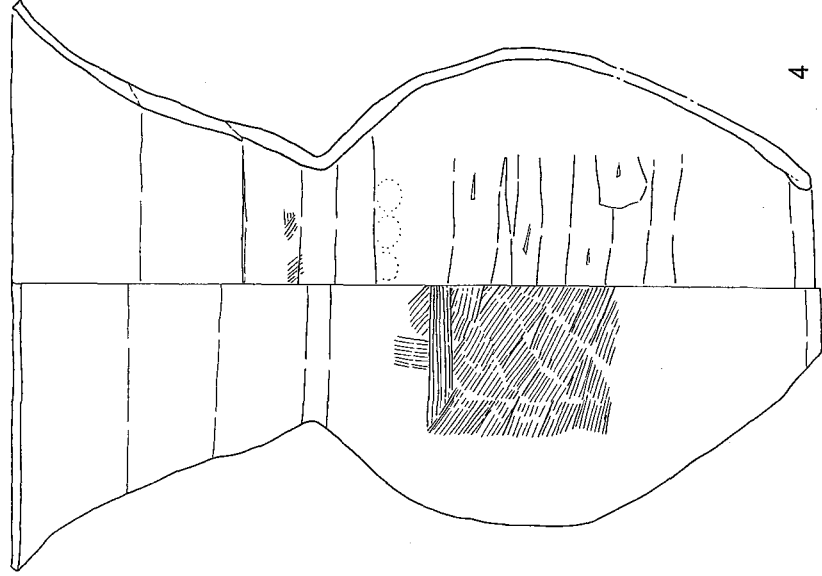
5



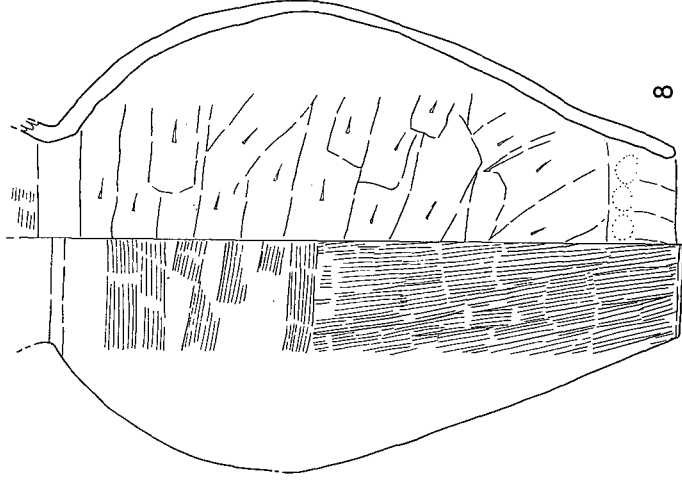
6



7



4



8



老司古墳出土の壺形埴輪および関連遺物 (1/3・1/4)

4. DNA “おもしろ探検隊” の実施報告

DNA活動とは

福岡市は、市職員の意識改革をはかる目的でDNA運動を推進している。DNAとは、D：「できる」から始めよう、N：「納得」できる仕事をしよう、A：「遊び心」を忘れずにという3項目の頭文字を並べたものである。

DNA2003 “おもしろ探検隊” 実施

当センターでは、展示をとおして埋蔵文化財をアピールする試みとしては2003年1月よりDNA “おもしろ探検隊” をスタートした。およそ3ヶ月を目処にプチ展示を行い、同時に解説リーフレットに加えて関連ポストカードを配布した。平成15年度は、3回のプチ展示を実施した。展示期間は3～4ヶ月程度で広報のポストカード（右の写真）と解説リーフレットを配布した。次年度も新たな展示があることを印象づけてリピータの確保に努めたい。

市役所内での活動のアピール

おもしろとは捉えどころのない言葉のようだが、「多少なりとも好奇心を刺激するもの」と捉えている。展示資料は、70万点にのぼる収蔵資料の中から選定し、来館者が興味の幅を広げられるよう意図した。

2004年1月6日には、教育委員会でのDNA運動発表で活動をアピールした。2月6日には、DNA運動発表大会「DNAどんたく」に紙上参加し、活動をアピールする機会を得た。収蔵品がさまざまな場面で活用されるよう今後も活動を継続したい。

平成15年度 第1回展示 赤穂ノ浦遺跡出土の銅鐸鑄型の銅鐸鑄型

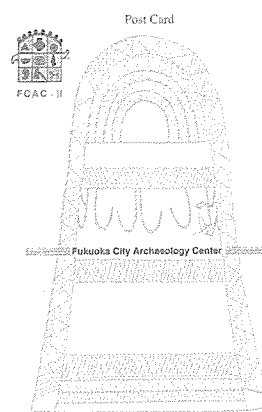
鑄型に彫りこまれた鹿と鉤状文から弥生時代のまつりの主題を考える。

平成15年度 第2回展示 吉武遺跡出土の木製馬具

保存処理によって明らかになった古墳時代の馬具を再現する。

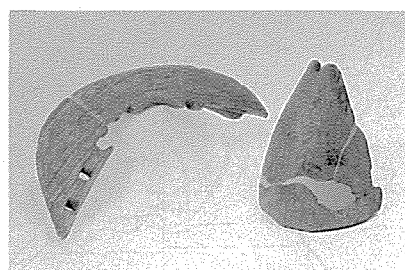
平成15年度 第3回展示 鹿が線刻された甕棺

躍動感あふれる二頭の鹿は、弥生時代の絵画としては最も古い時期の描写。弥生人の死生観と絡めてその意義を推理する。



シカを彫った銅鐸の鑄型（赤穂ノ浦遺跡、弥生時代中期）

(1回)



古墳時代の木製馬具（吉武遺跡出土）

(2回)



(3回)

5. 教育普及活動

(1) 展 示

当センターでは「埋蔵文化財の保存・保護」と、本市の都市像のひとつである「海と歴史を抱いた文化都市」に則した「弥生以来の海外交易の拠点都市」を展示の主テーマとしている。

第1展示室では、埋蔵文化財の保護と保存をテーマに、発掘調査から遺物・記録類が収蔵、管理・活用されるまでの一連の流れと、木器・金属器等の科学的保存処理の成果を「埋蔵文化財とは何か」・「埋蔵文化財の保存処理」・「埋蔵文化財の修復」・「発掘現場での保存科学的作業」・「埋蔵文化財の収蔵管理と活用」・「埋蔵文化財と考古学」・「旧石器・縄文時代の福岡」の項目で展示している。木器・金属器等の科学的保存処理の成果を展示している。

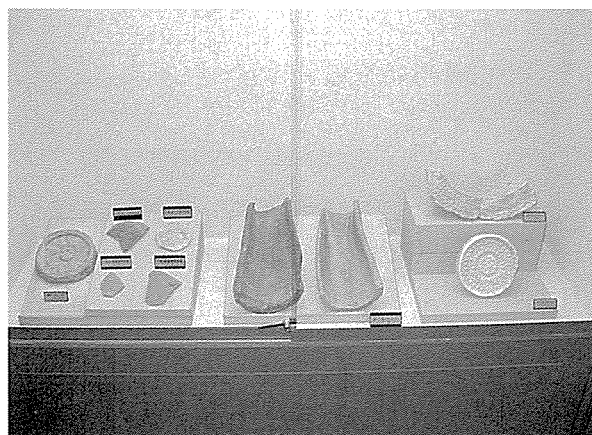
第2展示室では、江戸時代に鎖国されるまで

日本の玄関口であり続けた本市の特徴をとりあげ、最も脚光を浴びた「奴国の時代」の弥生時代と国内最大の国際貿易港であった「中世都市博多」の時代の時代に焦点をあて、それぞれ「奴国の拠点集落那珂・比恵遺跡」・「奴国以前」・「大型建物」・「環濠・大溝・条溝」・「墳丘墓」・「交流と交易」・「争う」・「祭る」・「装う」・「つくる」・「まかなう」と「日本の玄関・博多」・「匠」・「鴻臚館の時代」・「海外との交易」・「国内の交易」・「中世博多の情景」・「戦乱」・「たしなむ・あそぶ」の項目でテーマ展示を行っている。

第3展示室は、部門展示室として短期展示を行っており、考古学講座に合わせたテーマ展や発掘調査速報展・特別展などを実施している。平成15年度は下表のとおり6回の展示会を実施した。

種 別	名 称	期 間
テーマ展	「海をめぐる文化史」前期（縄文～古墳時代）展 「海をめぐる文化史」後期（古代～近世）展	2003.4.19～2003.7.18 2003.10.28～2004.4.10
発掘調査速報展	「金武城田遺跡1号墳調査速報」展 「雑餉隈遺跡第15次調査速報」展	2003.6.19～2003.7.18 2004.3.4～2004.3.31
特別展	「甦る出土遺物—平成14年度保存処理成果—」展 「平成15年度市指定文化財資料」展	2003.7.19～2003.10.23 2004.3.12～2004.3.31

〈第3展示室展示会一覧〉



「海をめぐる文化史—後期—」展



「甦る出土遺物—平成14年度保存処理成果—」展

(2) 講座

考古学講座は、2003年度のテーマを「海をめぐる文化史」とし、周囲を海に囲まれたわが国が、古来より海からのはかり知れない恩恵と海上の道をとおしてさまざまな文物を受け入れてきた歴史を様々な遺跡の発掘調査をもとに掘り下げるべく、それぞれの研究者を招いて7回の講座を開催した。

発掘調査速報講座は、本年度に発掘調査が行われた遺跡のうち重要と思われるものについて速報講演を実施しているもので、本年度は紙面を賑わすような発見が少なかったが、藤崎遺跡、鴻臚館跡・元岡桑原遺跡群における速報講演と、年度末恒例の市内遺跡調査総まくりを含めた計3回の講演を行った。

特別講座は、当センターが実施した平成14年度の保存処理業務における成果を主体とした「甦る出土遺物」と埋蔵文化財課との共催で「福岡市・釜山市文化財交流事業 一韓国の瓦一」の2回の特別講座を実施した。



考古学講座風景



発掘調査速報講座風景

考古学講座一覧

	年 月 日	講 演 内 容	講 師	受講者数
第1回	H15.5.17(土)	縄文時代の環日本海交流	熊本大学 甲元 眞之氏	173名
第2回	H15.6.21(土)	弥生の海人	愛媛大学 下條 信行氏	153名
第3回	H15.8.16(土)	遺物に見る海漁の歴史	福岡市教育委員会 山崎 純男氏	109名
第4回	H15.9.20(土)	漂着物は語る	古賀市立歴史資料館 石井 忠氏	86名
第5回	H15.11.15(土)	貝の道・南海交流史	熊本大学 木下 尚子氏	112名
第6回	H15.12.20(土)	海を渡ったやきもの	福岡市教育委員会 佐藤 一郎氏	89名
第7回	H16.2.21(土)	出島から見える風景	長崎市教育委員会 高田 美由紀氏	101名

発掘調査速報講座一覧

	年 月 日	講 演 内 容	講 師	受講者数
第1回	H15.7.12 (土)	砂上の墳丘墓 —藤崎遺跡第32次調査から—	福岡市教育委員会 池田 祐司氏	70名
第2回	H16.1.17 (土)	鴻臚館跡・元岡桑原遺跡群 —平成15年度の調査から—	福岡市教育委員会 大庭 康時氏 菅波 正人氏	140名
第3回	H16.3.20 (土)	平成15年度遺跡調査総まとめ —市域内の調査から—	福岡市教育委員会 力武 卓治氏 蔵富士 寛氏 阿部 泰之氏	97名

特別講座一覧

	年 月 日	講 演 内 容	講 師	受講者数
第1回	H14.8.9 (土)	甦る出土遺物 —平成14年度保存処理成果について—	福岡市教育委員会 比佐 陽一郎氏	72名
第2回	H14.10.4 (土)	韓国の瓦 —釜山広域市文化財交流事業から—	釜山市博物館 崔 晶惠氏	85名

(3) 館内授業・職場体験

館内授業

センター職員が講師となり、収蔵している出土資料を用いる授業を平成15年度から開始した。中学生を対象とし、授業は「焼物の変遷」の歴史的授業と「酸化と還元」の理科的授業を市立板付中学校3年生（6クラス）に実施した。

職場体験

中学生に将来の職業や進路に対する関心や理解を深めてもらうことを目的として、センター業務を体験する職場体験を受け入れている。平成15年度は平成15年9月18日（木）に市立三筑中学校2年生4名が参加した。



社会科の授業風景



理科の授業風景

(4) 資料の提供

市民・小中学校・各種博物館・大学などの研究機関・出版社・報道関係などの利用希望に対して、考古資料や記録資料を提供している。資料利用は大きく館内利用と館外利用（貸出）に分けられる。館内利用件数は530件で、その内訳は考古資料の閲覧・実測・撮影などが223件10,689点、記録類・図書の閲覧が307件・5,100点である。

館外利用（貸出）件数は149件で、考古資料3,530点と記録类等910点の利用があった。利用内訳は、1年以上の長期貸出33件、博物館などの展示のための短期貸出94件である。

(5) 研究会の利用

部内および対外の考古学研究会での当館施設利用が8件あった。

(6) 図書の閲覧

1階図書コーナーに一般から小学生向けの歴史・考古学関係の図書約470冊を揃えている。ここの閲覧は自由である。2階図書室では市内及び全国の発掘調査報告書と歴史・考古学専門書を主に図書約46,000冊を揃えており、301件の利用があった。

(7) 刊行物

○『福岡市埋蔵文化財センター年報』第22号 平成14（2002）年度 A4版36ページ。平成16年3月25日発行。文化財関係機関・図書館などに配布。

○『見学のしおり』（展示案内パンフレット） B4版3つ折り6ページ。入館者に無料配布。

○『平成16年度考古学講座案内』A3版2ページ。文化財関係機関・図書館などや入館者に無料配布。

年月日	団体名	利用内容	人数
H15.4.12	東アジア考古学研究会	例会	25名
H15.7.5	主の産地推定から見た古代国家成立過程に関する総合的研究	例会	20名
H15.9.28	鴻臚館跡調査研究指導委員会	指導委員会	18名
H15.9.28	東アジア考古学研究会	例会	25名
H16.1.30	原の辻遺跡調査会議	指導委員会	11名
H16.2.8	東アジア考古学研究会	例会	20名
H16.2.28	埋蔵文化財研究会	例会	107名
H16.2.29	埋蔵文化財研究会	例会	85名

(8) 博物館実習

博物館実習の依頼があったので、以下のよう
に実施した。

①実習期間：平成13年7月24日～8月4日までの2週間

②実習生：9名（西南学院大学文学部国際文化学科・同外国語学科・福岡大学人文学部歴史学科・筑紫女学園大学

文学部日本語日本文学科）

③実習内容：オリエンテーション（1日）教育普及実習（貸出・展示5日）図書資料実習（1日）遺物保存処理実習（2日）収蔵管理実習（1日）施設見学（1日）

(9) 図書関係

①平成15年度図書受入状況

購入195冊(一般25・雑誌170)・受贈2,611冊(一般2,544・雑誌67)

計2,806冊(一般2,569・雑誌237)

②平成15年度末蔵書数

46,572冊(購入8,309・受贈38,254)

③定期受入雑誌

一部受贈を含めて以下の35種である。

(国内発行) URC資料季報・貝塚・古代文化・季刊考古学・月刊考古学ジャーナル・古代学研究ふるさとの歴史と自然・月刊文化財発掘情報・古代学研究所研

究紀要・物質文化・考古学雑誌・古文化談叢・文化庁月報・考古学研究・古文化総論・MuseumKyusyhu・古代学研究・カルテバイト・日本研究・信濃・文明のクロスロード・ユネスコ世界遺産・CSN西日本文化・博物館研究・みぞほ・九州考古学

(国外発行) 朝鮮考古研究・考古学報・考古・考古与文物・故宫博物院院刊・四川文物・中原文物・農業考古・文物

(10) 団体見学

年月日	団体名	人数
H15.4.15	福岡市立月隈小学校	75名
H15.4.17	福岡市立板付小学校	108名
H15.4.22	福岡市立柏原小学校	105名
	福岡教育大学大学院生	4名
H15.4.25	福岡市立笹丘小学校	77名
H15.5.8	福岡市立席田小学校	64名
H15.5.18	明治大学考古学博物館友の会	28名
H15.5.20	福岡市情報プラザ	10名
H15.5.27	福岡市立吉塚小学校	73名
H15.5.28	柳川市立昭代第一小学校	76名
	筑紫野市男子料理クラブIMC	12名
H15.6.5	福岡市立飯倉小学校	101名
	福岡市立弥永西小学校	108名
H15.6.10	福岡市立警固小学校	27名
H15.6.13	福岡市立西高宮小学校	153名
H15.7.1	福岡市立板付中学校	64名
H15.7.2	福岡市立板付中学校	62名
	美野島衛生連合会	19名
H15.7.4	福岡市立板付中学校	63名
H15.7.6	別府大学史学科	39名
H15.7.8	福岡市立板付中学校	65名
H15.7.15	福岡市立板付中学校	62名
H15.7.16	福岡市立板付中学校	62名
H15.7.19	出前授業(老司公民館)	63名

年月日	団体名	人数
H15.7.22	テレビ映画ロケ隊	50名
	韓国新石器研究会	34名
H15.7.30	大野城市教育委員会子供考古学教室	9名
H15.7.31	福岡市博物館学芸員実習生	18名
H15.9.11	三筑中学校(職場体験)	4名
H15.9.25	博多区役所博水会	16名
H15.10.1	東区古代史の会	10名
H15.10.22	長崎県飯盛町立飯盛西小学校	7名
H15.10.26	歴史博物館友の会	34名
H15.10.31	大川市立宮前小学校	47名
	福岡市立多々良小学校	118名
H15.11.1	福岡フレンド少年少女合唱団	35名
H15.11.5	博多南ディサービス	8名
H15.11.16	別府大学史学科	18名
H15.11.20	長崎県有家町教育委員会	5名
H15.11.23	甘木市琴平町町内会	12名
H15.11.7	あおぞら古賀ディサービスセンター	19名
H15.11.14	あおぞら古賀ディサービスセンター	24名
H15.11.21	別府大学文化財学科	48名
	あおぞら古賀ディサービスセンター	18名
H16.1.18	あおぞら古賀ディサービスセンター	23名
H16.2.7	韓国釜山大学	25名
H16.2.22	福岡市横浜地区住みよい町づくりの会	18名

2003年度資料貸出等一覧

件数	受付月日	申請者	区分	資料名	点数				貸出日	備考
					遺物	写真	他	計		
1	20030122	福岡市博物館	A	城ノ原他	1196	0	0	1196	20030401	常設展示
2	20030131	国立歴史民俗博物館	A	板付・有田・三筑	25	0	0	25	20030401	常設展示
3	20030218	大阪府立弥生文化博物館	A	今山・藤崎・有田他	24	0	0	24	20030401	常設展示
4	20030307	広島県立歴史博物館	A	博多陶磁器	6	0	0	6	2003401	常設展示
5	20030310	焼津市歴史民俗資料館	A	藤崎58号壺棺	2	0	0	2	20030401	常設展示
6	20030310	新宮町教育委員会	A	石丸古川・飯氏ヅウサ土器	3	0	0	3	20030401	町立歴史資料館内常設展示
7	20030310	リコーテクノシステムズ(株)九州支社	A	比恵25次土器	3	0	0	3	20030401	ロビー常設展示
8	20030310	グランドホームサンケア和臼	A	唐土土器・展示台	6	0	4	10	20030401	ロビー常設展示
9	20030313	粕屋町教育委員会	A	戸原裏尾六花鏡・陶磁器	44	0	0	44	20030401	町立歴史資料館内常設展示
10	20030315	菊池市教育委員会	A	博多人骨・陶磁器他	150	0	0	150	20030401	菊池神社歴史館内常設展示
11	20030315	東京国立博物館	A	鴻巣館陶磁器	23	0	0	23	20030401	平成館考古展示室常設展示
12	20030316	市立賀茂小学校	A	鶴岡土器・石器	36	0	0	36	20030401	校内常設展示
13	20030314	市立馬出小学校	A	箱崎馬出土器	6	0	0	6	20030401	校内常設展示
14	20030316	市立三善小学校	A B C	三善土器・石器・写真・ケース	69	3	2	79	20030401	校内常設展示
15	20030316	市立野多目小学校	A	野多目土器	47	0	0	47	20030401	校内常設展示
16	20030316	市立名島小学校	A	蒲田・海の中道他	28	0	0	28	20030401	校内常設展示
17	20030314	市立東箱崎小学校	A	箱崎・板付他	7	0	0	7	20030401	校内常設展示
18	20030315	博多区総務部振興課	A B C	博多土器・陶磁器他・ケース	25	12	2	53	20030401	まちかど文化ひろば「えふギャラリー」展示
19	20030315	福岡市交通局	A	藤崎3次壺棺	4	0	0	4	20030401	藤崎駅常設展示
20	20030320	文化財整備課	A	鴻巣館跡出土陶磁器など	113	0	0	113	20030401	鴻巣館展示館
21	20030320	文化財整備課	A	金隈遺跡出土土器	61	0	0	61	20030401	金隈遺跡展示館
22	20030320	文化財整備課	A	野方遺跡出土遺物	42	0	0	42	20030401	野方遺跡展示館
23	20030320	文化財整備課	A	板付遺跡出土遺物	71	0	0	71	20030401	板付遺跡展示館
24	20030320	群島歴史民俗博物館	A	藤崎50号壺棺	2	0	0	2	20030401	館内常設展示
25	20030320	神戸市教育委員会	A	有田64次壺棺	3	0	0	3	20030401	埋蔵文化財センター内常設展示
26	20030318	高口裕屋ビル	A	博多126次白磁他	7	0	0	7	20030401	エントランス常設展示
27	20030325	市立板付北小学校	A	板付土器	10	0	0	10	20030401	校内常設展示
28	20030325	市立市川考古博物館	A	西新町2次12号壺棺	2	0	0	2	20030401	館内常設展示
29	20030326	今宿横浜地区すみよい町づくりの会	A	今山石斧・土器	18	0	0	18	20030401	自治会館内常設展示
30	20030326	古賀市教育委員会	A	藤崎2次40号壺棺他	2	0	1	3	20030401	市立歴史資料館常設展示
31	20030329	東北歴史博物館	A	有田7次弥生土	1	0	0	1	20030401	館内常設展示
32	20030401	西南学院大学	A	羽根戸原C須恵器	20	0	0	20	20030401	博物館実習教材
33	20030401	福岡市博物館	A	藤崎・徳永他土器	10	0	0	10	20030401	博物館体験学習
34	20030402	読売新聞社西部本社福岡総本部	E	鴻巣館青磁水注・皿	0	0	0	0	-	4月夕刊企画「博多商人伝」
35	20030403	福岡市博物館	A	唐原他玉・木簡作製遺物	13	0	0	13	20030410	「出前学習」事業
36	20030408	㈱ゼット出版	B	金隈壺棺墓	0	1	0	1	20030410	「解決センター」日本史
37	20030407	㈱小学館	B	板付他弥生土器	0	8	0	8	20040410	「考古資料大観」第1巻「弥生・古墳時代土器。」
38	20030408	鳥取県教育委員会	B	吉武高木117号壺棺墓	0	1	0	1	20030411	特別展「最新成果で語る鳥取の弥生文化」図録
39	20030406	㈱小学館	D	板付54・59次環濠出土土器	0	0	0	0	-	「考古資料大観」第1巻「弥生・古墳時代土器。」
40	20030406	㈱小学館	E	那珂・板付他土器	0	0	0	0	-	「考古資料大観」第1巻「弥生・古墳時代土器。」
41	20030410	福岡市博物館	A	東郡珂1次銅鏡片	1	0	0	1	20030410	常設展示代替展示
42	20030420	白鳥舎	B	板付水田	0	1	0	1	20030423	「縄文の素顔」
43	20030422	鴻巣館跡調査担当	B	金隈140号墓他	0	2	0	2	20030422	業務
44	20030425	読売新聞社西部本社福岡総本部	E	鴻巣館青磁・白磁碗皿	3	0	0	3	20030506	5月夕刊企画「博多商人伝」
45	20030509	読売新聞社西部本社福岡総本部	E	博多29次出土竹とんぼ他	9	0	1	10	20030516	6月夕刊企画「博多商人伝」
46	20030516	埋蔵文化財センター	A	井尻B遺跡出土石器他	15	0	0	15	20030516	大学講義
47	20030527	埋蔵文化財センター	A	野多目磁瀬遺跡スライド	0	9	0	9	20030527	大学講義
48	20030603	埋蔵文化財センター	A	有田七田前遺跡スライド	0	27	0	27	20030603	大学講義
49	20030516	NHK(日本放送協会)	E	橋本一丁田遺跡	0	0	0	0	20030516	ニュース
50	20030520	博多人形商工業共同組合	D	博多遺跡出土土人形	0	0	0	0	-	「博多人形沿革」に掲載
51	20030522	㈱小学館	D	赤穂ノ浦遺跡銅鑄型他	0	0	0	0	-	「考古資料大観」第6巻「弥生・古墳時代 青銅・ガラス製品」
52	20030523	㈱小学館	B	四箇遺跡	3	0	0	3	20030525	「考古資料大観」第8巻「弥生・古墳時代 木・繊維製品」
53	20030523	㈱小学館	B	板付遺跡	5	0	0	5	20030525	「考古資料大観」第1巻「弥生・古墳時代土器。」
54	20030520	町田市博物館	A B	博多遺跡第35次出土土磁器他	20	4	0	24	20030618	「精選 東南アジア陶磁」展
55	20030530	福岡市博物館	A	博多遺跡第60次出土土磁器	3	0	0	3	20030615	「精選 東南アジア陶磁」展代替品
56	20030606	埋蔵文化財課	C	有田遺跡	6	0	0	6	20030606	報告書作成
57	20030610	文化財整備課	A	博多遺跡111次出土メダイ他	9	0	0	9	20030610	文化財保護審議会(指定資料)
58	20030610	埋蔵文化財センター	B	鍋先古墳	41	0	0	41	20030610	大学講義資料
59	20030617	㈱小学館	D	板付遺跡出土土器	0	0	0	0	-	「考古資料大観」第1巻「弥生・古墳時代土器。」
60	20030617	NHK(日本放送協会)	E	市内出土弥生土器	0	0	0	0	-	クローズアップ現代
61	20030622	埋蔵文化財課	E	吉武第9次出土土器	78	0	0	78	20030622	大学講義資料
62	20030624	埋蔵文化財センター	B	藤田青木第2次	19	0	0	19	20030624	大学講義資料
63	20030625	福岡市博物館	A	博多遺跡80次出土土製天鈿型	2	0	0	2	20030702	レプリカ作成
64	20030626	埋蔵文化財課	B	舞松原古墳他	48	0	0	48	20030626	講座資料
65	20030629	㈱学宝社	B	板付遺跡石包丁	1	0	0	1	20030716	中学教科書に掲載
66	20030702	埋蔵文化財課	B	藤崎遺跡第3次他	93	0	0	93	20030702	講座資料
67	20030705	兵庫県上郡町	D	吉武遺跡	0	0	0	0	-	天之日牙に掲載
68	20030708	国立歴史民俗博物館	D	比恵遺跡第6次土器付着煤38点	0	0	0	0	-	放射年代測定分析資料
69	20030708	春日市奴国の丘歴史資料館	B	雀居遺跡第4次漆器他	13	11	0	11	20030724	「先史時代の技術」展
70	20030708	春日市奴国の丘歴史資料館	A	雀居遺跡第4次漆器他	13	0	0	13	20030902	「先史時代の技術」展
71	20030708	大分県歴史博物館	E	雀居遺跡第4次出土土器他	63	0	0	63	-	「二千年の感動」展
72	20030708	大分県歴史博物館	B	雀居遺跡第4次調査風景他	5	0	0	5	20030930	「二千年の感動」展
73	20030708	大分県歴史博物館	A	雀居遺跡第4次出土土器他	63	0	0	63	20031216	「二千年の感動」展
74	20030712	㈱小学館	D	藤崎遺跡ガラス玉	0	0	0	0	-	「考古資料大観」第6巻「弥生・古墳時代 青銅・ガラス製品」
75	20030713	埋蔵文化財課	B	下山門乙女田遺跡第1次他	17	0	0	17	20030713	説明会資料
76	20030716	東宝㈱	E	施設使用ロケ	0	0	0	0	-	火曜サスペンス
77	20030717	九州歴史資料館	B	今宿遺跡全景	1	0	0	1	20031112	「大宰府へ、ひとが動き、ものが動く」展
78	20030717	九州歴史資料館	A	今山遺跡3次出土土器	18	0	0	18	20031112	「大宰府へ、ひとが動き、ものが動く」展
79	20030718	大分市歴史資料館	D	博多遺跡60次出土土器陶器他	0	0	0	0	20031209	「豊後府内 南蛮の彩り」展
80	20030718	大分市歴史資料館	B	博多遺跡出土44次緑釉陶器他	2	0	0	2	20031202	「豊後府内 南蛮の彩り」展
81	20030718	大分市歴史資料館	A	博多遺跡60次出土土器他	47	0	0	47	20031202	「豊後府内 南蛮の彩り」展
82	20030718	埋蔵文化財センター	B	板付遺跡他	17	0	0	17	20030718	大学講義資料
83	20030720	下関市立考古資料館	B	三宮永浦遺跡遠景	6	0	0	6	20031016	「玉つくり」展
84	20030720	下関市立考古資料館	A	三宮永浦遺跡出土玉造関連遺物	12	0	0	12	20031204	「玉つくり」展
85	20030722	共同通信社	D	有田七田前遺跡出土無文土器	0	0	0	0	-	「揺れる古代の美年代」に掲載
86	20030731	埋蔵文化財センター	B	板付遺跡他	27	0	0	27	20030731	大学講義資料
87	20030801	㈱白鳥社	B	板付遺跡出土土器他	2	0	0	2	20031001	「縄文の素顔」に掲載
88	20030802	国立歴史民俗博物館	D	有田遺跡出土土器	0	0	0	0	-	「歴史」「美年代」に掲載
89	20030806	松山考古館	B	西新町遺跡第4次出土土器他	10	10	0	10	20031202	「渡来人の足跡」展
90	20030806	松山考古館	A	西新町遺跡第4次出土土器他	10	0	0	10	20031202	「渡来人の足跡」展
91	20030806	㈱T & E	D	板付遺跡出土土器	0	0	0	0	-	酒造メーカ工程解説ビデオ
92	20030813	福岡市博物館	A	博多遺跡第60次出土土磁器他	3	0	0	3	20030916	「豊後府内 南蛮の彩り」展貸与品の代替え
93	20030808	㈱学習研究社	D	板付遺跡出土石包丁	0	0	0	0	-	参考書に掲載
94	20030809	㈱アルパ	B	板付遺跡全景	1	0	0	1	20030816	デジタルポリアディアに掲載
95	20030814	㈱小学館	D	梅林古墳出土鉄滓他	0	0	0	0	-	「考古資料大観」第7巻「弥生・古墳時代 鉄・金銅製品」
96	20030814	㈱小学館	E	井尻B遺跡出土銅鏡型他42点	0	0	0	0	20030904	「考古資料大観」第3・6・7巻「弥生・古墳時代」
97	20030814	㈱小学館	B	井尻B遺跡出土銅鏡型	57	0	0	57	20030905	「考古資料大観」第6・7巻「弥生・古墳時代」
98	20030816	㈱小学館	E	下月隈B遺跡出土銅鏡	0	0	0	0	20030904	「考古資料大観」第6巻「弥生・古墳時代 青銅・ガラス製品」
99	20030816	㈱小学館	D	板付遺跡出土小銅鏡	0	0	0	0	20030904	「考古資料大観」第6巻「弥生・古墳時代 青銅・ガラス製品」

6. 入館者数

(1) 入館者総数一覧

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(人)	比率(%)	
(日)		26	27	25	27	27	25	27	26	23	23	25	26	307		
個人	一般	男	127	143	168	159	135	120	129	104	97	91	116	255	1,644	0.5%
		女	67	99	60	71	60	52	64	88	29	92	61	98	841	27.8%
		小計	194	242	228	230	195	172	193	192	126	183	177	353	2,485	82.2%
	学 生	小学生	24	16	15	3	32	16	9	4	4	8	15	4	150	5.0%
		中学生	2	2	0	3	7	1	1	3	0	4	2	2	27	0.9%
		高校生	3	1	2	2	2	1	0	5	2	0	2	2	22	0.7%
		大学生	6	27	41	19	42	32	35	24	19	11	9	21	286	9.5%
		その他	3	4	6	5	7	3	3	4	1	3	6	8	53	1.8%
		小計	38	50	64	32	90	53	48	40	26	26	34	37	538	17.8%
	合 計(a)	232	292	292	262	285	225	241	232	152	209	211	390	3,023	100.0%	
	団 体	一般	25	223	153	207	181	145	173	144	150	174	335	106	2,016	49.9%
		(団体数)	1	4	1	6	2	3	5	4	4	3	5	2	40	
		小学生	469	213	389	4	0	0	172	43	0	0	0	0	1,290	31.9%
(団体数)		5	2	4	1	0		2	2	0	0	0		16		
中学生		0	0	135	254	136	10	0	0	0	0	0	0	535	13.2%	
(団体数)		0	0	4	8	8	2	0	0	0	0	0	0	22		
高校生		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
(団体数)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
大学生		4	0	0	108	0	0	0	18	48	0	25	0	203	5.0%	
(団体数)		1	0	0	5			0	1	1	0	1	0	9		
合 計(b)	498	436	677	573	317	155	345	205	198	174	360	106	4,044	100.0%		
(団体数計)	7	6	9	20	10	5	7	7	5	3	6	2	87			
総 計 (a+b)	730	728	969	835	602	380	586	437	350	383	571	496	7,067			

(2) 個人入館者年齢区分一覧

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(人)	比率(%)
0～19才	32	24	24	9	52	25	22	17	5	13	19	10	252	8.3%
20～29才	24	50	60	47	51	49	53	52	40	35	43	28	532	17.6%
30～39才	33	42	61	65	38	29	29	23	37	37	31	52	477	15.8%
40～49才	51	57	97	69	75	54	64	34	40	70	65	118	794	26.3%
50～59才	48	81	31	35	33	34	55	77	16	43	29	65	547	18.1%
60～69才	33	25	15	27	20	25	11	16	13	10	18	68	281	9.3%
70～79才	9	11	3	9	15	9	6	10	1	1	6	44	124	4.1%
80才以上	2	2	1	1	1	0	1	3	0	0	0	5	16	0.5%
計	232	292	292	262	285	225	241	232	152	209	211	390	3,023	100.0%

(3) 個人入館者住所区分一覧

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(人)	比率(%)
福 岡 市	154	198	75	107	132	95	59	60	24	121	112	160	1,297	42.9%
福 岡 県 内	28	38	161	100	102	71	120	114	80	65	53	155	1,087	36.0%
県 外	50	56	56	55	51	59	57	58	45	23	46	64	620	20.5%
国 外	0	0	0	0	0	0	5	0	3	0	0	11	19	0.6%
計	232	292	292	262	285	225	241	232	152	209	211	390	3,023	100.0%

7. 平成15年度当初予算

(1) 歳入

2,439千円 (国補助金2,000千円、使用料及び手数料54千円、諸収入385千円)

(2) 歳出

106,831千円 (管理運営費86,074千円、事業費20,757千円)

Ⅱ 埋蔵文化財センターの概要

1. 組織と職員

(1) 福岡市文化財行政の組織

教育委員会—教育長—教育次長—文化財部長

文化財整備課	管理係	部の総括、予算・決算、庶務・経理、文化施設の管理
	整備係	文化財の指定、史跡の保存・整備
課長	主査	鴻臚館跡の調査担当
埋蔵文化財課	調査第1係	課の庶務、南・城南・早良・西区に係る埋蔵文化財の発掘調査
	調査第2係	国庫補助事業及び中央・博多・東区に係る埋蔵文化財の発掘調査
	事前審査係	公共及び民間開発事業の埋蔵文化財に係る事前審査
課長	主査	大規模事業等担当
埋蔵文化財センター	管理係	施設の管理運営、考古学的資料の収集・保存・展示

(2) 埋蔵文化財センターの職員（平成15年度）

所長 山口 讓治	運営係長 内田 寿生	事務吏員 矢野 昌治	嘱託 片多 雅樹 (保存処理指導員) 柳田 純孝 (専門調査員)
		文化財主事 瀧本 正志	
	主任文化財主事 常松 幹雄	文化財主事 比佐陽一郎	

2. 施設

(1) 施設の概要

センターは敷地面積4,000㎡、鉄筋コンクリート造3階建（建設面積1,015㎡、延床面積1,992㎡）の規模で昭和57年2月開館した。その後、昭和61年3月に収蔵庫を主とした増築（建設面積1,000㎡、延床面積1,994㎡）を行った。さらに平成9年度から大規模な増築・改造を実施し、平成11年4月にリニューアルオープンの運びとなった。

(2) 施設の保全

消防訓練

当センターでは、万一の火災に備えて年1回の割合で消防訓練を実施している。平成15年度は、2月27日に職員ならびに警備・受付の担当者を含めて訓練を行った。写真1は、博多消防署の予防課職員が防火についての注意事項を述べられている様子である。写真2は、消火器で実際に訓練を行っている模様である。

災害は日頃の心がけが肝要であることは言うまでもない。消防訓練を通して防災意識を再確認することがもっとも大きな目的である。



写真1

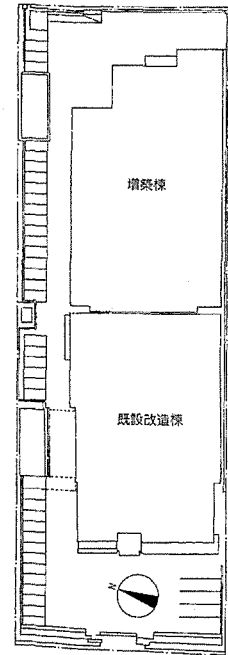


写真2

(2) 主な施設

施設区分	室名	床面積(m ²)
教育普及	第1展示室	167.00
	第2展示室	127.00
	第3展示室	61.00
	研修室	140.00
	図書室・図書コーナ	181.00
	貸出準備室	85.00
	資料閲覧室	58.00
収 蔵	収蔵庫	5,601.00
	特別収蔵庫	547.00
	記録類収蔵庫	192.00
	荷解・搬入室	65.00
	消毒室	23.00

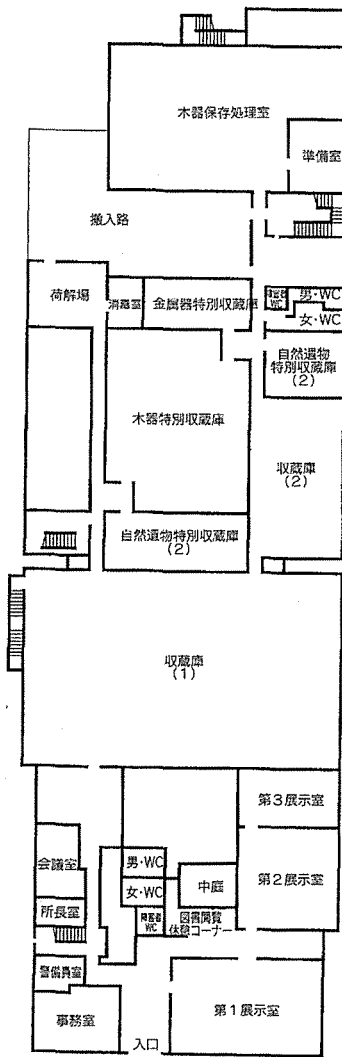
施設区分	室名	床面積(m ²)
保存処理	木器保存処理室	426.00
	金属器処理室	156.00
	分析室	154.00
資料整理	洗浄室	37.00
	資料整理室	235.00
	写場・暗室	63.00
管 理	倉庫	58.00
	事務・会議室等	140.00
	警備・機械室等	258.00
	通路・エレベーター等	1,434.00
その他	疵・トラックヤード等	505.60
	計	10,713.60



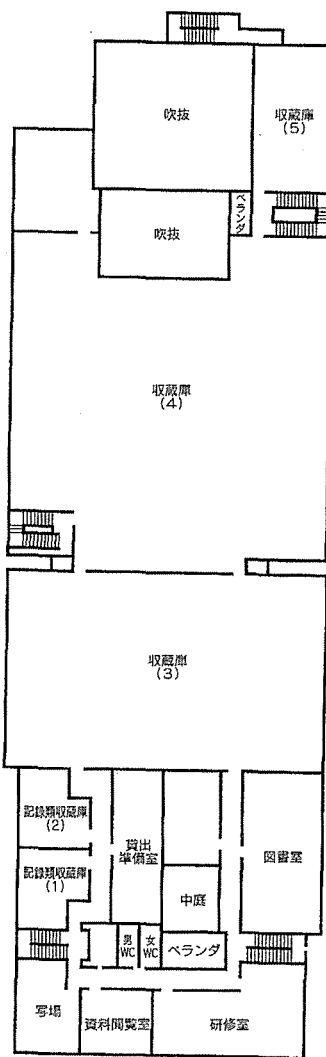
建物配置図 ▶

正面入口

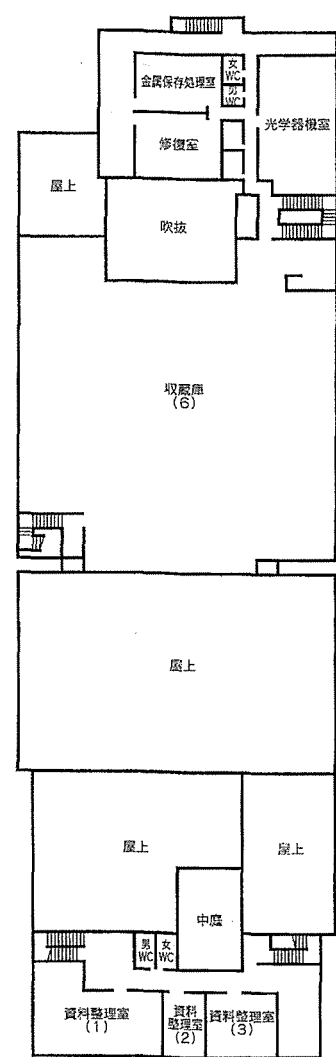
▼ 施設平面図



〔1階〕



〔2階〕



〔3階〕

付1 福岡市埋蔵文化財センター条例等

福岡市埋蔵文化財センター条例

(昭和56年12月21日)
条例第66条

(設置)

第1条 発掘調査等で出土した考古学的資料(以下「資料」という。)の保存と活用を図り、もって市民文化の向上に資するため、福岡市埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)を福岡市博多区井相田2丁目に設置する。

(事業)

第2条 センターは、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 資料の収集、整理及び保存に関すること。
- (2) 資料を展示し、公開すること。
- (3) 資料の専門的調査研究を行うこと。
- (4) 前3号に掲げるもののほかに、センター設置の目的達成に必要なこと。

(職員)

第3条 センターに所長その他必要な職員を置く。

(入館の制限)

第4条 教育委員会は、次の各号いずれかに該当する者に対し、入館を拒み、又は退去を命ずることができる。

- (1) センターの管理上必要な指示又は指導に従わない者

(2) センターの管理上支障があると認められる者(資料の貸出し)

第5条 教育、学術若しくは文化に関する機関若しくは団体又は学術研究のため特に資料を使用しようとする者は、教育委員会の許可を受けて資料の貸出しを受けることができる。

2 前項の貸出しは、資料の保管について安全が確保できると認められる場合に限り行うものとする。

(損害賠償)

第6条 資料の観覧者または貸出しを受けた者が、その責めに帰すべき理由によりセンターの建物若しくは施設又は資料を破損し、滅失し、又は汚損して本市に損害を与えたときは、これらを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、センターの管理に必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、交付の日から起算して3月を越えない範囲内において教育委員会規則で定めた日から施行する。

(昭和57年規則第3号により)
昭和57年2月22日から施行

福岡市埋蔵文化財センター条例施行規則

(昭和56年1月25日)
教育委員会規則第4号

改正 昭和61年一教規則2、平成4一教規則7、
平成4一教規則3

(趣旨)

第1条 この規則は、福岡市埋蔵文化財センター条例(昭和56年福岡市条例第66号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 福岡市埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)の事業を行うため、センターに管理係を置く。

(職員)

第3条 センターに所長、係長、吏員その他の職員を置く。

- 2 前項の職員のほか、特定事務を担当させるため、センターに主任文化財主事及び文化財主事を置くことができる。
- 3 所長、係長、主任文化財主事、文化財主事は、吏員のうちから命ずる。
- 4 係長又は主任文化財主事のうちから統括係長を命ずることができる。
- 5 所長及び係長は、上司の命を受けてセンター又は係りの事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 6 主任文化財主事及び文化財主事は、上司の命を受けて担当事務を処理する。

(職務権限の代行)

第4条 所長に事故がある場合、又は所長が欠けた場合において、特に事務取扱者を命じないときは、係長がその係りに属する事務について所長の職務権限を代理して行う。ただし、重要又は異例な事務については、文化財部長の指揮を受けなければならない。

2 前項の規定により所長の職務権限を代理して行う者がいないときは、文化財部長が行う。

(開館時間)

第5条 センターの開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育長は、必要があると認める場合は、これを変更することができる。

(休館日)

第6条 センターの休館日は次のとおりとする。ただし、教育長は、必要と認める場合は、これを変更し、又は臨時に休館日を設けることができる。

- (1) 毎週月曜日
- (2) 12月28日から翌年1月4日まで

(入館者の心得)

第7条 センターに入館する者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 所定の場所以外の場所で飲食し、喫煙し又は火

気を使用しないこと。

- (2) 騒音を発する等他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 危険物又は動物を持ち込まないこと。
- (4) 所定の場所以外に立ち入らないこと。
- (5) 職員が行う管理上必要な指示又は指導に従うこと。

(貸出)

第8条 条例第5条第1項の規定による資料の貸出しを受けようとする者は、福岡市埋蔵文化財センター資料貸出許可申請書(様式第1号)を教育長に提出

しなければならない。

(寄贈等)

第9条 センターに資料を寄贈し、又は寄託しようとする者は、教育委員長に申し出なければならない。

2 寄託を受けた資料の貸出しは、寄託者の承諾を行って行うものとする。

(委任)

第10条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附則

この規則は、昭和57年2月22日から施行する。

保存処理設備機器の外部使用許可基準

1. 基本的使用許可基準

外部に対する保存処理設備機器の使用許可に際しては、下記要件を満たすものであることを原則とする。

- (1) 本市の保存処理業務に支障をきたすおそれがないこと。
- (2) 文化財保護の観点から重要性があり、本市の文化財保護行政に寄与するものであること。

2. その他の許可基準

- (1) 使用は、センター職員の指導・助言のもと、原則として外部担当職員が行うものとする。
- (2) 使用に際して必要となる原材料・作業員等は使用者側(外部)の負担とする。
- (3) 一括委託等請負的な処理は許可しないこととする。
- (4) 民間業者等営利を目的とする団体からの依頼については許可しないこととする。
- (5) 緊急性のある場合や特殊なものを除いて、通常の保存処理については受け付けないものとする。
- (6) 使用に際しては、事前にセンター職員と協議のうえ申請書を提出し、許可を得ることを必要とする。
- (7) 使用にあたってはセンター職員の指示に従うこと。また指示以外の行為により機器を破損した場

合は、使用者側の責任において原状回復すること。

3. 対象機器一覧

本基準を適用する保存処理機器は、別紙一覧表の通りとする。

4. 許可基準の理由(略)

本基準は平成12(2000)年3月1日より施行する。

(別紙) *主な保存処理機器の品名のみを列記

大型PEG含浸槽、一体型PEG含浸槽、真空凍結乾燥機、小型真空凍結乾燥機、有機遺物処理装置、減圧含浸装置、工業用電子天秤、偏光顕微鏡、実体顕微鏡、ビデオマイクロスコープ、赤外線カメラ、画像ファイリング装置、分析用電子天秤、赤外線分水計、大型滑走式マイクロトム、蛍光X線分析装置、微小部蛍光X線分析装置、X線回折装置、走査電子顕微鏡、顕微赤外分光光度計、透過X線撮影装置、分析用試料作成装置、マグネチックスターラー、ドラフトチャンバー、精密噴射加工機(エアブラシ)、精密グラインダー、送風定温乾燥機、大型送風定温乾燥機、真空乾燥機、卓上電気炉、純水製造装置、超音波洗浄機、真空デシケーター、攪拌機、真空脱泡用デシケーター、シーラー、バキュームシーラー、ホットエアガン

埋蔵文化財センターにおける有料複写サービス取り扱い要項

(目的)

第1 この要領は、教育委員会文化財部埋蔵文化財センターにおいて、埋蔵文化財センター図書室所蔵の発掘調査報告書等行政資料のサービスを行う際の取り扱いについて、必要な事項を定めるものとする。

(複写サービスの申し込み)

第2 複写サービスの申し込みは、口頭で受けるものとする。

(複写手数料)

第3 複写サービスについては、福岡市手数料条例(昭和35年条例第11号)第2条第2項に基づき実費を徴収するものとし、その複写サービス料金は次の通りとする。なお、手数料については利用者が見やすいところに掲示するものとする。

- (1) 用紙の規格は日本工業規格B列5番からA列3

番までとし、1枚につき10円とする。

(複写手数料の納入等)

第4 行政資料複写の申し込みがあった場合は、申込者に対して複写手数料の金額を告知し、現金による納入を受けた後、金銭登録機で打出した領収票又は現金領収帳による領収書を交付するものとする。

付則

この要項は平成12年4月5日から施行する。

この要項は平成14年8月1日から施行する。

この要項は平成15年1月7日から施行する。

- 758集 博多87-博多遺跡群第124次調査の報告〔0006〕
 780集 飯氏二塚古墳2-飯氏二塚古墳第2次調査報告〔0246〕
 781集 梅林遺跡第4次調査-一般国道202号福岡外環状線道路、及び福岡市営地下鉄3号線建設に伴う発掘調査報告5〔9963〕
 782集 比恵33-比恵遺跡群第81次調査報告書〔0239〕
 783集 鴻臚館跡14-鴻臚館跡第20次調査〔0218〕
 784集 有田・小田部39-有田遺跡群194次・195次・196次・201次・203次・204次〔9929・9931・9967・0103・0213・0231〕
 785集 飯倉B遺跡-飯倉B遺跡第2次調査〔0259〕
 786集 飯氏遺跡群3-飯氏遺跡群第8次調査〔9649〕
 787集 井尻B遺跡12-井尻B遺跡群第17次調査(A・E・F区)の報告〔0027〕
 788集 井尻B遺跡13-井尻B遺跡群第21次調査の報告〔0126〕
 789集 梅林遺跡第5次調査-一般国道202号福岡外環状線道路、及び福岡市営地下鉄3号線建設に伴う発掘調査報告6〔9938〕
 790集 梅林遺跡7-梅林遺跡第7次調査〔0157〕
 791集 大橋E遺跡6-第8・9次調査報告〔0131・0203〕
 792集 金武1-金武地区農村振興総合整備統合補助事業関係調査報告1-浦江遺跡第5次調査1〔0144〕
 793集 中南部(7)福岡市博多区・南区所在遺跡の調査-比恵遺跡群68次・五十川遺跡群9次・雑餉隈遺跡群12次・那珂遺跡群87次の調査〔9912・0215・0223・0258〕
 794集 椎原A遺跡-椎原A遺跡第2次調査〔0211〕
 795集 下月隈C遺跡IV-福岡空港周辺整備工事に伴う下月隈C遺跡第5次調査報告〔9922〕
 796集 下山門乙女田3-下山門乙女田遺跡第3次調査報告〔0227〕
 797集 次郎丸高石1-次郎丸高石遺跡第5次調査報告〔0209〕
 798集 周船寺遺跡5-周船寺遺跡群第14次調査〔0226〕
 799集 外環状道路関係埋蔵文化財調査報告書22-高畑遺跡第19次調査報告〔0261〕
 800集 那珂34-那珂遺跡群第69次調査報告〔9905〕
 801集 那珂35-那珂遺跡群第85次調査報告〔0230〕
 802集 那珂36-那珂遺跡群第86次調査報告〔0248〕
 803集 外環状道路関係埋蔵文化財調査報告書23-七隈古墳群C2号墳調査報告〔0320〕
 804集 野芥4-野芥遺跡群第11次調査〔0206〕
 805集 博多96-博多遺跡群132次調査報告〔0120〕
 806集 博多97-博多遺跡群138次調査報告〔0220〕
 807集 博多98-博多遺跡群139次調査報告〔0221〕
 808集 博多99-博多遺跡群140次調査報告〔0238〕
 809集 博多100-博多遺跡群141次調査報告〔0244〕
 810集 箱崎16-箱崎遺跡群第15次調査の報告〔9816〕
 811集 箱崎17-箱崎土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告II-箱崎遺跡群第22次調査報告〔0022〕
 812集 箱崎18-箱崎遺跡群第27次調査報告〔0113〕
 813集 箱崎19-箱崎遺跡群第29次・31次調査報告〔0202〕・〔0214〕
 814集 箱崎20-箱崎遺跡群第38次調査報告〔0260〕
 815集 箱崎21-箱崎土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告III-箱崎遺跡群第26次調査報告(1)〔0108〕
 816集 橋本一丁田遺跡4-橋本一丁田遺跡第4次調査〔0136〕
 817集 羽根戸原C遺跡群IV-羽根戸原C遺跡第5次調査〔0138〕
 818集 原遺跡11-原遺跡第22次調査報告〔0205〕
 819集 外環状道路関係埋蔵文化財調査報告書21-樋井川B樋井川B遺跡群第1次調査報告〔0105〕
 820集 比恵34-比恵遺跡群第74次調査報告〔0101〕
 821集 比恵35-比恵遺跡群第79次調査報告〔0233〕
 822集 比恵36-比恵遺跡群第80次調査報告〔0235〕
 823集 東油山古墳群-東油山古墳E群第1次調査〔0212〕
 824集 藤崎遺跡15-藤崎遺跡32次調査報告〔0237〕
 825集 南八幡遺跡6-南八幡遺跡第11次調査報告〔0228〕
 826集 三宅廃寺2-三宅A遺跡・三宅廃寺推定地の第2次調査報告〔0150〕
 827集 三宅廃寺3-個人専用住宅建設に伴う三宅廃寺第3～5次調査の報告〔0249・0250・0251〕
 828集 席田大谷遺跡群5-空港関係埋蔵文化財発掘調査報告書3〔0216〕
 829集 元岡・桑原遺跡群3第3・4・8・11次調査の報告-九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調査報告書〔9763・9764・9829・9855〕
 830集 弥永原遺跡5-第6次調査報告〔0201〕
 831集 吉武遺跡群XVI-飯盛・吉武圃場整備関係調査報告書10古墳時代生活遺構編1〔8335・8416・8535〕
 福岡市埋蔵文化財年報Vol.17 -平成14年(2002)年度版-

福岡市埋蔵文化財センター年報 第23号

2004年9月28日

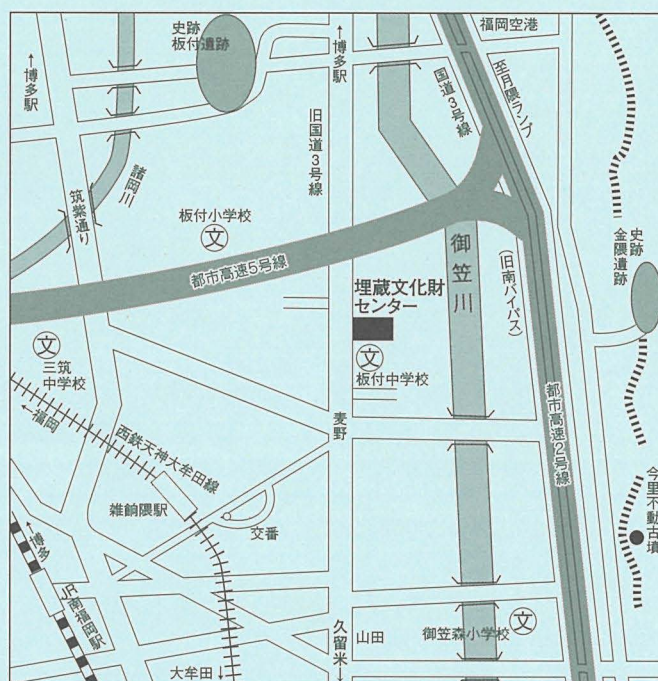
発行 福岡市教育委員会
福岡市博多区井相田2-1-94印刷 九州チューエツ株式会社
福岡市博多区東比恵2-9-1

FUKUOKA CITY ARCHAEOLOGY CENTER

Annual Report

No.23

2004



福岡市埋蔵文化財センター

- 所在地 福岡県福岡市博多区井相田2丁目1-94 (〒816-0081)
- 電話 (092) 571-2921 Fax. (092) 571-2825
- 開館時間 午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日・年末年始 (12月28日～1月4日)
- 入館料 無料 (ただし団体で見学の場合は事前に連絡が必要)
- 交通手段
- 西鉄天神大牟田線 雑餉隈駅ざっしよのくまから徒歩15分
 - JR鹿児島本線 南福岡駅から徒歩25分
 - 西鉄バス 博多駅交通センターから41番雑餉隈営業所行ざっしよのくまに乗車30分
板付中学校前いたづけ (埋蔵文化財センター前) 下車すぐ

<http://www.city.fukuoka.jp/maibun/>